



A detailed technical line drawing of a remote-controlled drift car chassis. The drawing shows the front and rear suspension systems, including shock absorbers, coilovers, and various linkages. The body shell is shown separately at the top, and the engine and transmission components are also visible. The entire drawing is composed of fine lines on a white background.

DRIFT PACKAGE

DRIFT PACKAGE TYPE B CHASSIS KIT

2009.09.03

この度はヨコモ製R/Cカーキットをお買い求め頂き、誠に有り難うございます。このキットは、ワールドチャンピオン メーカーであるヨコモの高性能・競技用R/Cカーです。
本説明書に従った正しい組立・安全な走行をして頂ければ、誰でも手軽に楽しむことが出来ます。

Thank you for purchasing this Yokomo product. This high performance competition kit has been proudly manufactured by Yokomo - World Champion R/C car manufacturer.
Proper assembly of this product will provide fun, safe enjoyment.

R/C カーを安全に楽しんで頂くための 注意事項

お子様(中学生以下)が 組立・走行する際は、必ず保護者の方が付き添い 安全を確認して下さい。

組立の注意

- 幼児のいる場所では組み立てないで下さい。小さな部品を飲み込む等、非常に危険です。
- 組立の前に必ず内容をお確かめ下さい。万一不良部品、不足部品などがあった場合は、ヨコモ アフターサービス部までお問い合わせ下さい。
- 組立の前に説明書を最後まで読み、全体の流れをつかむと効率的な組立が出来ます。
- 組み立てる際は、様々な工具が必要になります。安全の為に必ず作業内容に合った工具を使用して下さい。又、カッターナイフ等を使用する際は危険を伴いますので、注意して下さい。
- 部品には様々な素材を使用しています。切削加工された金属バーツ等はエッジが鋭く、慎重な組立が必要となります。ケガをしないよう注意して下さい。
- プラスティックバーツなどを切断する際は、切断した部品が飛ぶ危険があるので注意して下さい。
- 回転部や駆動部は出来るだけスムーズに動作するように組み立てて下さい。
- 配線やコード類はきれいにまとめて下さい。回転部分や走行路面にコードが接触すると危険です。又、配線は確実に接続されていないショートなどの恐れや、性能を十分に発揮出来ない場合があります。
- 必要以上の分解、改造をすると、安全性が低下したり走行性能が十分に発揮出来なくなる場合があります。
- 塗装は、周囲に火気の無いことを確認し、換気の良い場所で行って下さい。

走行の注意

- ヨコモ製R/Cカーは競技用の為、時速40kmを越える速いスピードが出るモデルもあります。ルールを守って安全な場所や、R/Cカーアクセサリで走らせて下さい。
- 公道等、周囲の人の迷惑になるような場所では絶対に走らせないで下さい。
- R/Cカーは電波を利用する為、何らかのトラブルで最悪の場合は暴走する事があります。狭い場所や室内は避け、出来るだけ広い、障害物のない場所で走らせて下さい。
- 周囲にR/Cカーを走らせている人がいる場合は、電波が重ならないように、周波数を確認し合って、安全を確かめて下さい。
- R/Cカーは水を嫌います。雨の日や、水たまりのある場所で走らせる、R/Cメカが壊れたり、暴走する危険があります。
- R/Cカーの駆動部分、ギヤやベルト、タイヤなどは高回転で回ります。バッテリーを接続した後は危険ですので、回転部分に手を触れないで下さい。
- 走行後のR/Cカーは各部が高温になる事があります。危険ですので冷却期間をおいてから、メンテナンスなどをして下さい。

走らせる手順

- ①タイヤが空転するように、台の上にR/Cカーを置きます。
- ②スピードコントローラのスイッチがOFFになっている事を確認してから、モーターとバッテリーを接続します。
- ③送信機のアンテナを伸ばし、スイッチをONにします。(送信機の電圧が下がっていると危険です。常に電圧の高い状態で使用して下さい。)
- ④受信機のスイッチをONにします。

走行終了手順

- ①スピードコントローラのスイッチをOFFにします。
- ②バッテリーの接続を外します。
- ③送信機のスイッチをOFFにし、アンテナを縮めます。

バッテリーの取り扱い

- (バッテリーに付属の説明書に基づき使用して下さい。)
- バッテリーを充電する際は、周囲に燃えやすい物のない安全な場所で行って下さい。又、高温な場所での充電も避けて下さい。
 - バッテリーの充電中は充電状況を常に確認して下さい。充電器の誤動作などで過充電すると、最悪の場合は発火する危険性があります。バッテリー温度が50度を越えたら充電を中止して下さい。
 - 走行後のバッテリーは高い温度になります。連続使用するとバッテリーを傷める事になりますので、冷却期間を置いてから充電して下さい。又、走行後のバッテリーはコンディション放電する事によって、性能を持続させる事が出来ます。
 - 不要になったバッテリーは一般的ゴミと一緒に捨てずに、お手数でも電池専用の回収箱に捨てて下さい。

モーターの取り扱い

- (モーターに付属の説明書に基づき使用して下さい。)
- 7.2Vのバッテリーでモーターのから回しをすると危険です。モーター内部を破損し部品が飛び出す事も考えられますので、もしモーターのブレーキインをする時は、モーターをしっかりと固定し3~5V程度でから回して下さい。
 - モーターは定期的なメンテナンスが必要です。劣化するとスピードが出なくなったり、走行時間が短くなります。定期的にクリーニングしたり、ブラシが減ってきたら交換する等のメンテナンスをして下さい。
 - モーターの性能に合ったギヤ比を選択して下さい。ギヤ比が最適でないとモーターの性能を十分に発揮出来ないだけでなく、他のR/Cメカを壊す原因になります。
 - 走行後のモーターは非常に高い温度になります。連続走行するとモーターを傷める事になりますので、冷却期間を置いてから走行して下さい。

PRECAUTIONS FOR SAFE ENJOYMENT OF YOUR R/C CAR

For children under the age of 13, parental guidance is recommended when running.

ASSEMBLY PRECAUTIONS

- Do not assemble around small children. The parts can be dangerous if accidentally swallowed.
- Check the contents carefully before assembly. Please contact Customer Support if you happen to notice any defective or missing items.
- You will find the assembly process much easier by carefully reading through the manual, and familiarizing yourself with the instructions.
- Many different tools are required during assembly. For safety purposes, please use suitable tools. Exercise extra caution when using a sharp tool such as a hobby knife.
- Many different materials are used for the parts. Use extra care when handling parts with sharp edges, such as machined metal parts.
- When cutting plastic parts, watch for any flying parts.
- Try to assemble any rotating parts or drivetrain parts as smooth as possible.
- Bundle wires neatly away from the ground or any moving drivetrain components. Make sure that all wires are properly connected to prevent shorting.
- Unnecessary modifications may be unsafe and hinder performance.
- Always paint in a well ventilated area away from flames.

PRECAUTIONS BEFORE RUNNING

- Yokomo R/C cars are built for competition use, and some models may exceed speeds of 40km per hour. Practice common sense and run the car in open safe places, or R/C car tracks.
- Do not run the car on public roads with high amounts of traffic, or in areas that may cause an inconvenience to people in that area.
 - R/C cars are controlled using a radio frequency. In a worst-case scenario, radio interferences may cause loss of control.
 - If others near you are running R/C cars, confirm that they are not running on the same frequency.
 - R/C cars do not like water. Avoid running on rainy days, or areas with water puddles. Exposure of the electronics to water may cause loss of control or damage to the electronics.
 - The drivetrain of an R/C car consists of many moving parts like gears, belts, shafts, and tires. Avoid touching these areas when the battery is connected.
 - Many parts of an R/C car will become hot after running. Allow the parts to sufficiently cool before conducting any maintenance.

BEGINNING A RUN

- Place the R/C car on a stand so the wheels are off the ground.
- Confirm that the speed controller switch is OFF, and connect the motor and battery.
- Extend the transmitter antenna and turn the switch ON. (It is unsafe to use a transmitter with low voltage. Make sure that the transmitter batteries are good before running)
- Turn the speed controller switch ON.

FINISHING A RUN

- Turn the speed controller switch OFF.
- Disconnect the battery.
- Turn the transmitter switch OFF, and retract the antenna.

BATTERY USAGE

- (Carefully read the instruction included with the batteries.)
- When charging batteries, make sure that the surrounding area is void of anything highly flammable. Also avoid charging in high-temperature locations.
 - When charging batteries, frequently monitor the charging it catch on fire. If the battery reaches 50 degrees Celsius or more, stop charging.
 - Batteries will become hot after running. Continuous use of the battery pack may result in damage to the cells. Allow the battery too cool down before re-charging. Using a battery conditioner after running may prolong the life and performance of the battery.
 - Please do not discard old battery packs in the trash. Although inconvenient, please locate a battery disposal center.

MOTOR USAGE

- (Carefully read the instruction included with the motor.)
- Connecting a 7.2V battery directly to the motor can be very dangerous. This may cause the internal parts of the motor to break apart, causing some parts to fly out of the motor. To break-in the motor, safely secure the motor and run the motor at about 3-5V.
 - Motors require periodic maintenance. Slower speeds and decreased run times may indicate a worn-out motor. Periodically clean the motor and change the brushes when needed.
 - Choose a gear ratio that matches the power characteristics of the motor. Using a gear ratio unsuited to the characteristics of the motor will not only prevent the motor from performing at its optimum, but may even cause damage to the other electronics.
 - Motors will generally become very hot after running. Continuous running will reduce the life of the motor. Allow the motor to sufficiently cool between each run.

【組み立てに必要な物】

ACCESSORIES AND TOOLS NEEDED FOR [DRIFT PACKAGE Type-B] ASSEMBLY

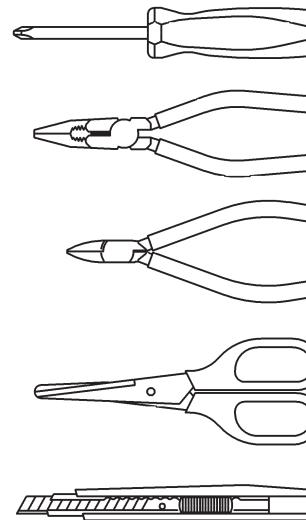
■ 走行の為に別にお買い求め頂く物 ■

ADDITIONAL ITEMS REQUIRED FOR USE (NOT INCLUDED IN KIT)

- 2チャンネルプロポ (1サーボ 1アンプ仕様)
**TWO CHANNEL R/C SURFACE RADIO SYSTEM
AND ELECTRONIC SPEED CONTROL**
- 走行用 7.2V バッテリーパック
7.2V BATTERY PACK
- 走行用バッテリー充電器
BATTERY CHARGER
- 走行用モーター
MOTOR
- タイヤ(タイヤ付キットは不要)
TIRES
- 走行用ボディー(ボディー付キットは不要)
BODY
- ボディー塗装用カラー
BODY SPRAY PAINT

■ 別途用意する工具 ■

ASSEMBLING TOOLS REQUIRED (NOT INCLUDED IN KIT)



ドライバー (大,小)
SCREW DRIVER (SMALL & LARGE)

ラジオペンチ
NEEDLE NOSE PLIERS

ニッパー
SIDE CUTTER

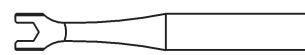
ハサミ
SCISSORS

カッター
HOBBY KNIFE

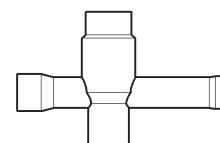
■ キットに入っている工具 ■ TOOLS (INCLUDED)



六角レンチ
ALLEN WRENCH
(1.5mm & 2.0mm)



ターンバッカルレンチ
TURNBUCKLE WRENCH



十字レンチ
NUT WRENCH

[DRIFT PACKAGE Type-B]の性能を十分に発揮させる
為にイラストを良く参考し説明の順番に従って確実に組み上げて下さい。

**For assembly, follow the figures and the instructions closely
so that your [DRIFT PACKAGE Type-B] will perform at its best!!**

【袋-① の内容】

--×8 M3×12皿タッピングビス

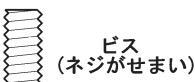
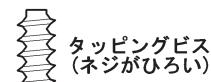
--×2 フロントサスマウント

--×2 リアサスマウント

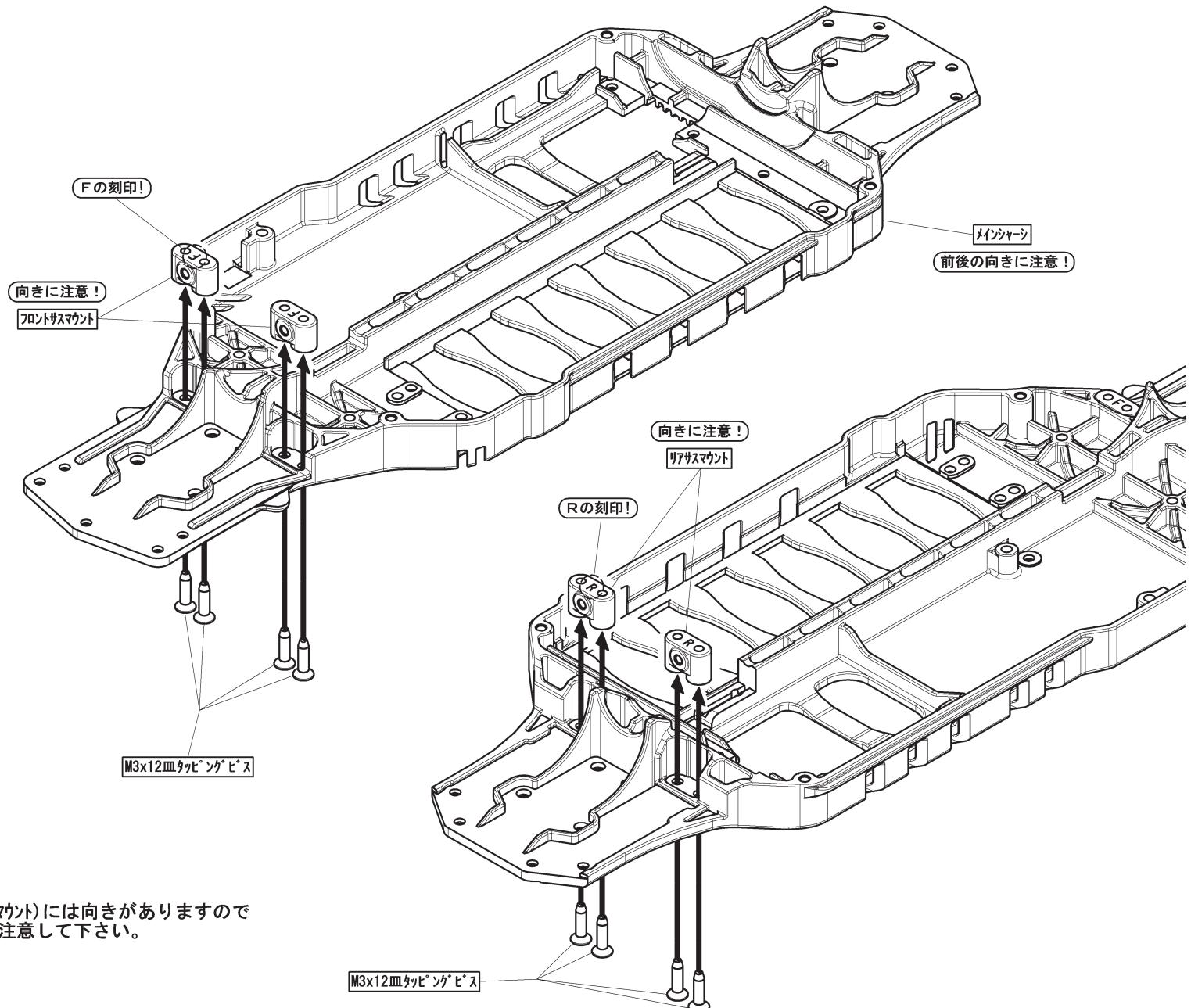
【取付け前にちょっと注目！】

キットにはネジ部分が違う2種類のビスが入っています。
使用個所を間違わないように十分注意して下さい。

※金属パーツにタッピングビスは使用できません。

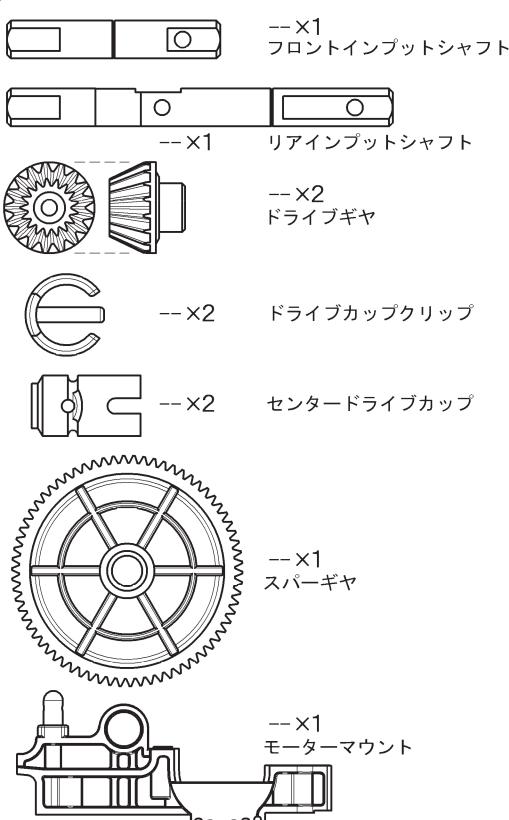
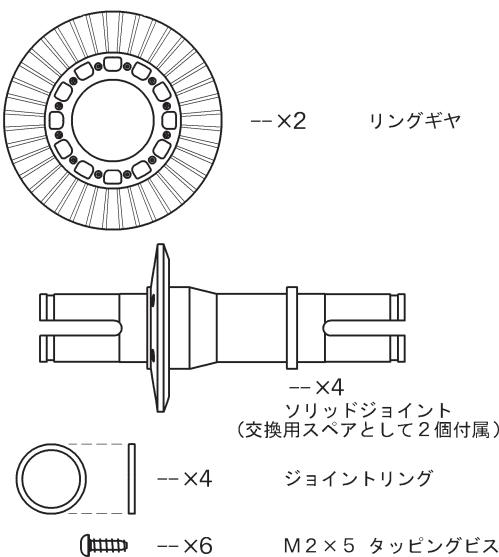


1 前後サスマウントの取付



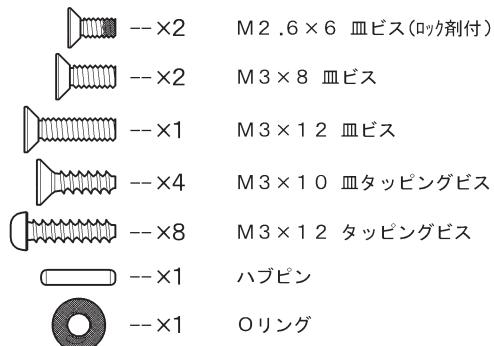
注意！－(フロント&リアサスマウント)には向きがありますので
取付時には注意して下さい。

【袋-② の内容】

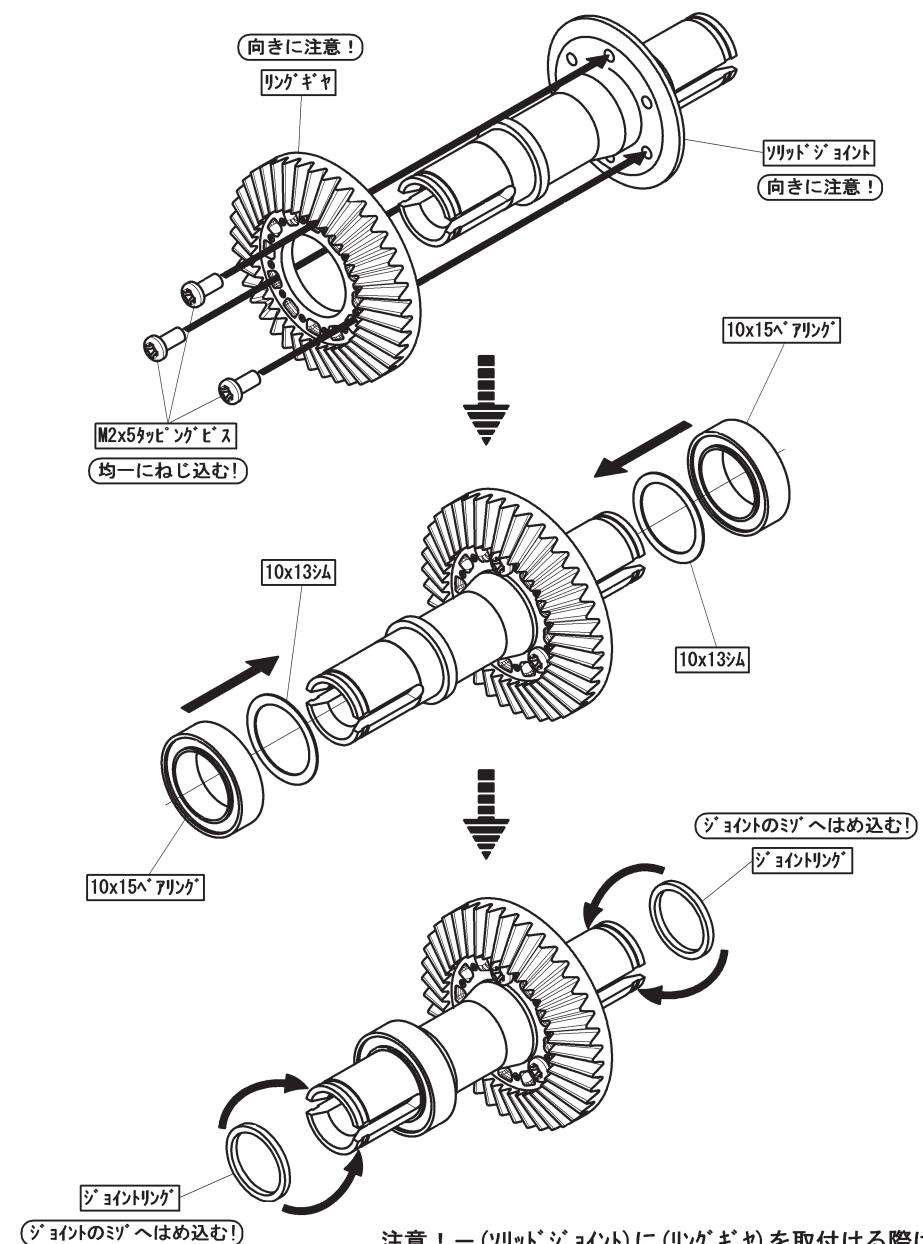


その他、ミッションケース類、シャーシプレース類

【袋-③ の内容】

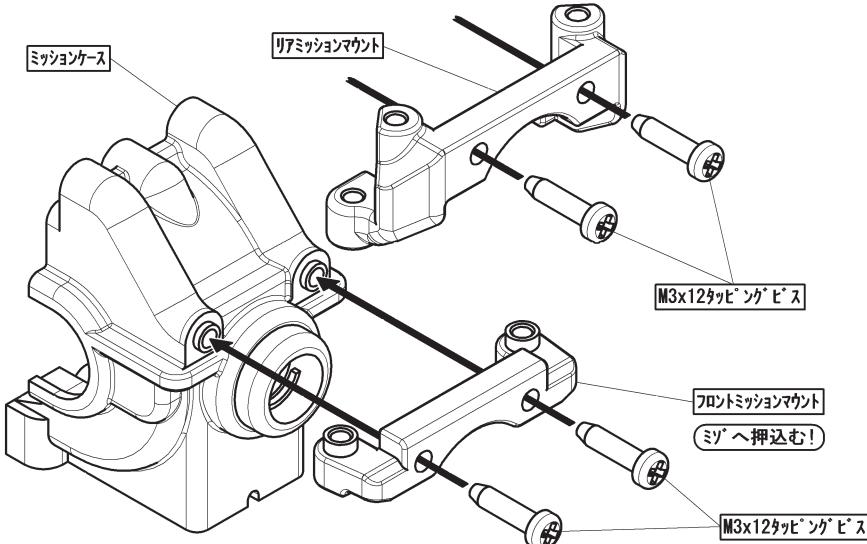


2 ソリッドジョイントの組立て(2セット作ります)



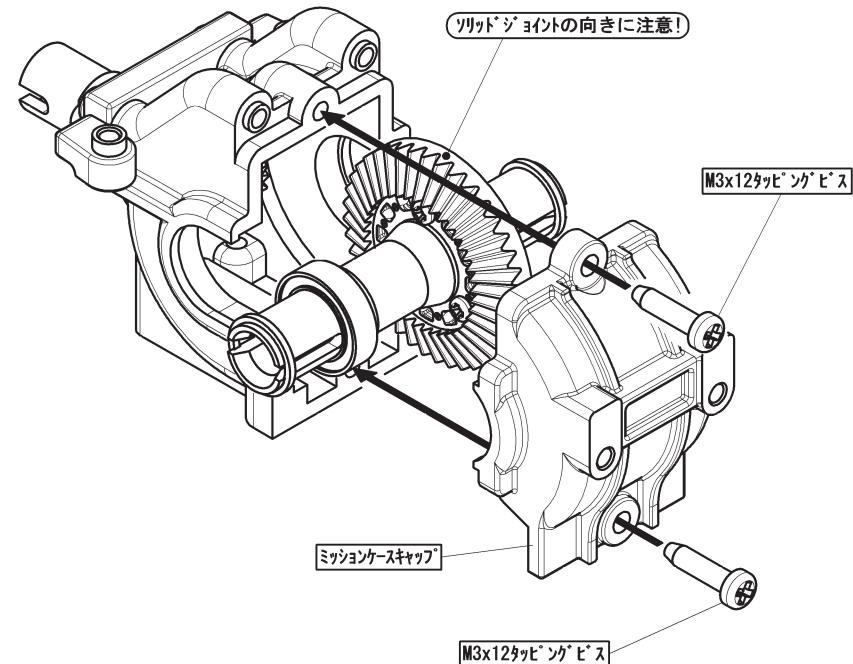
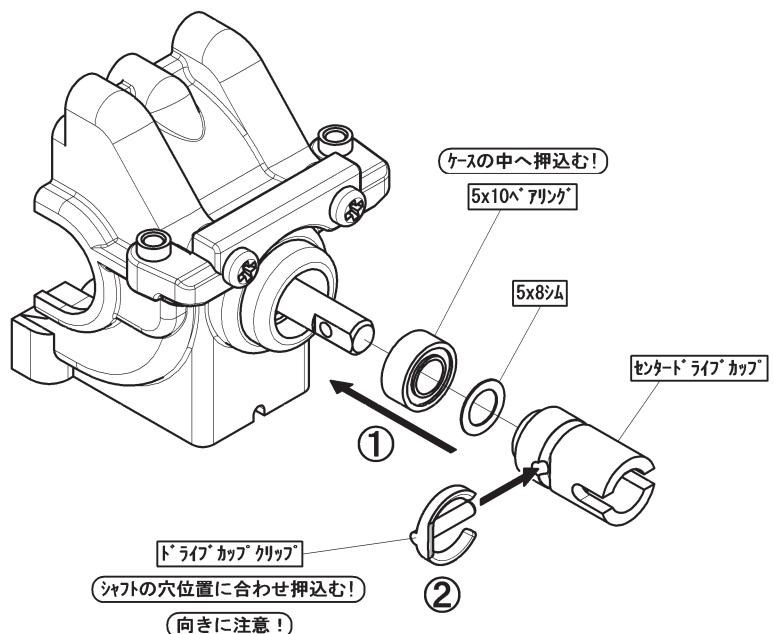
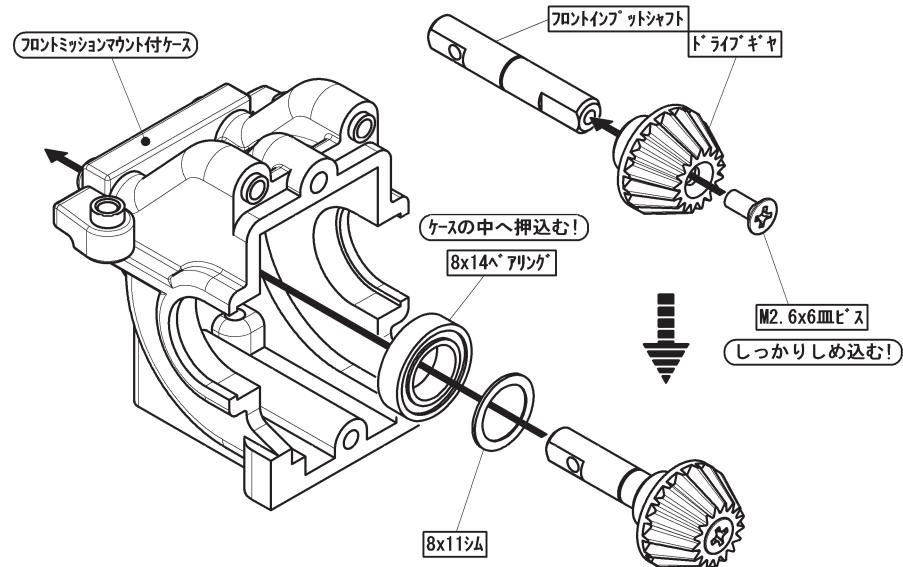
注意！— (ソリッドジョイント) に (リングギヤ) を取付ける際は、互いのネジ穴同士が合っている事を確認し、(M2x5タッピングビス) 3本を均等に少しづつ、まんべんなくしめ付けて下さい。

3 フロントミッションケースの組立て

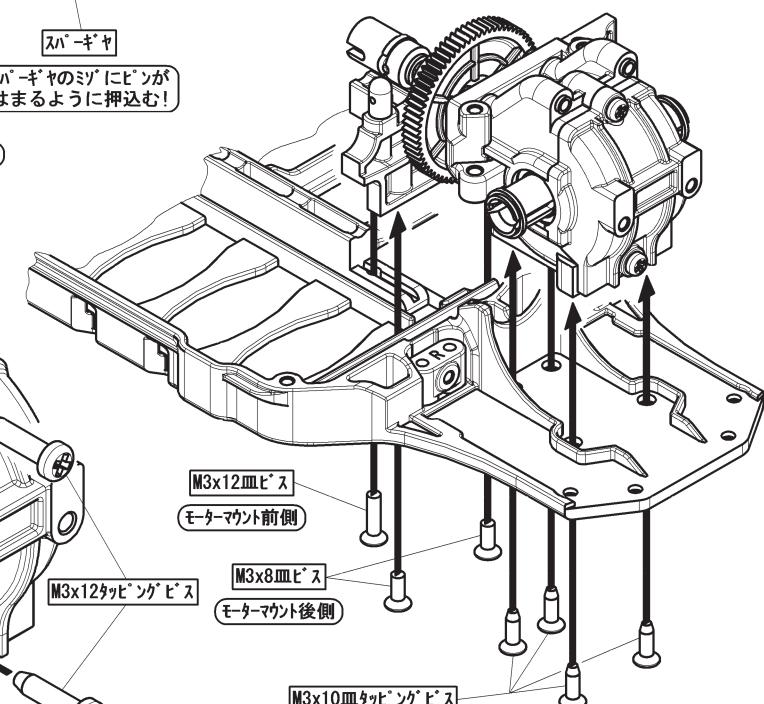
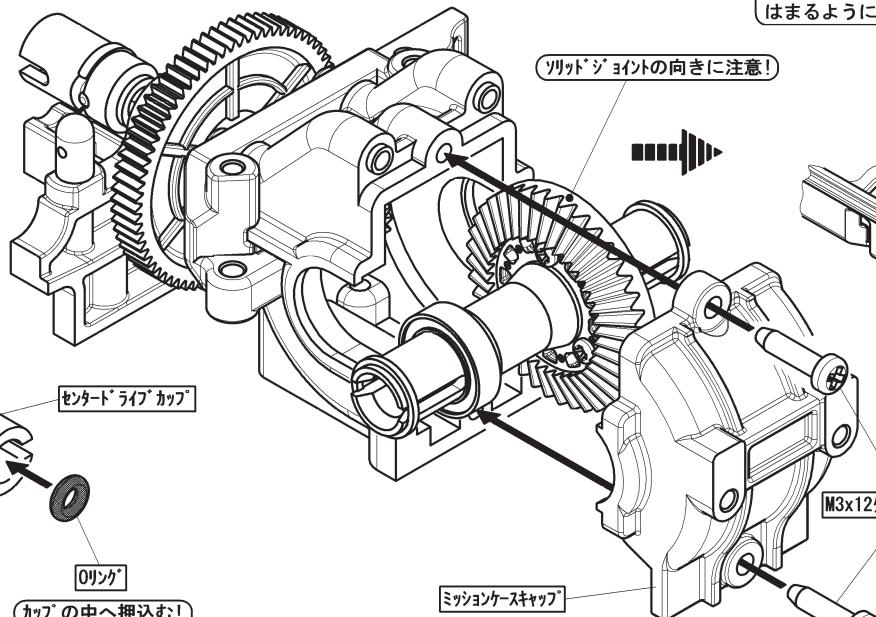
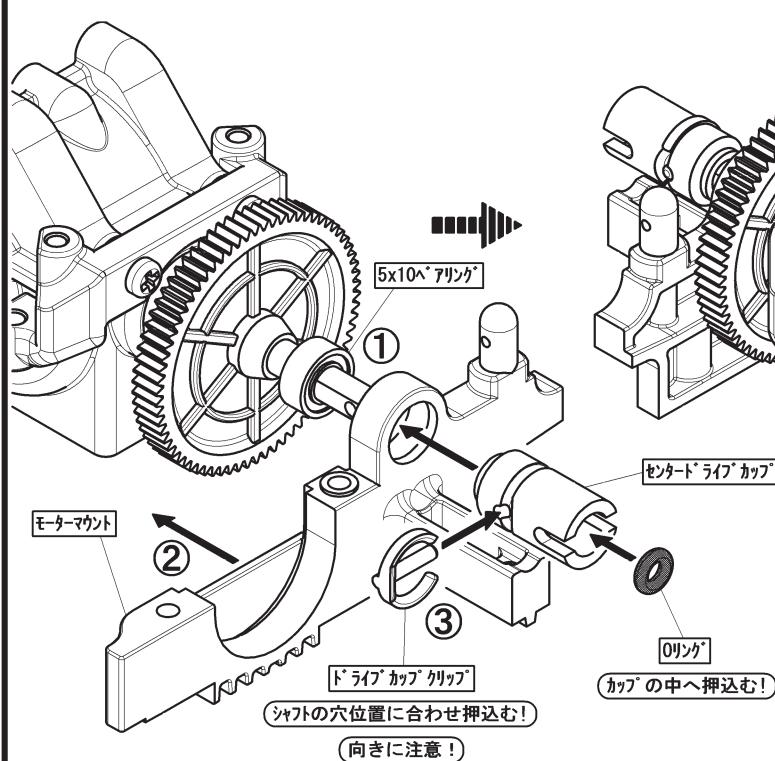
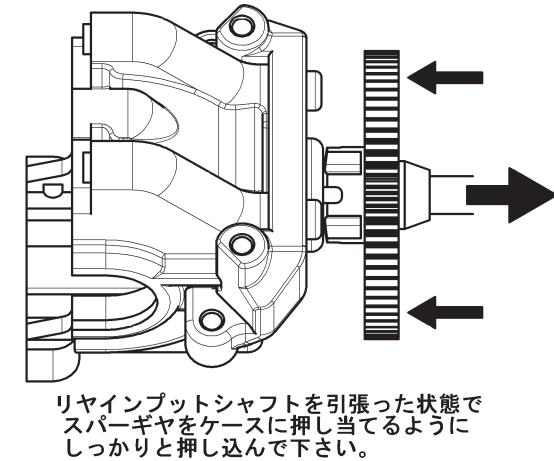
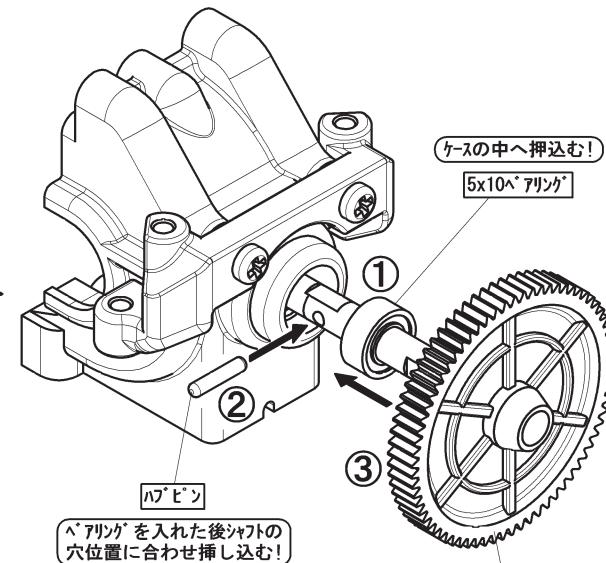
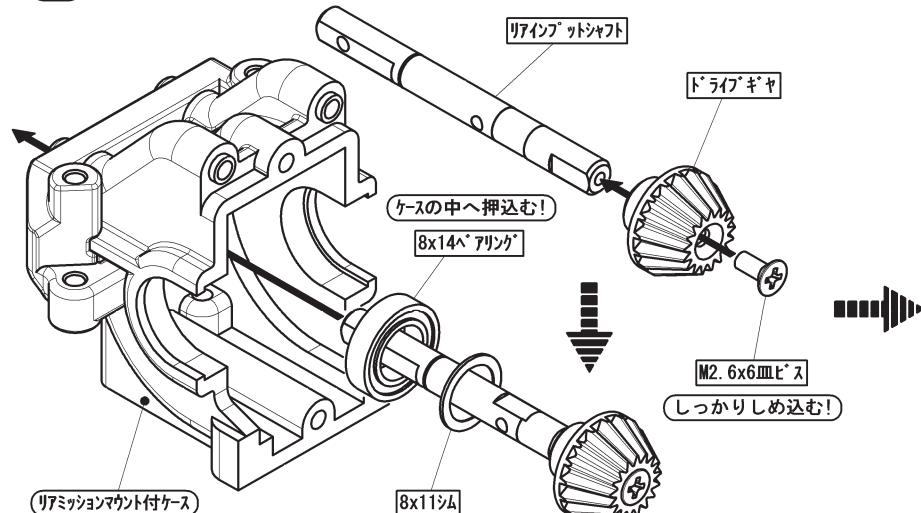


(ミッションケース)に(フロントミッションマウント)をはめ込み、(M3x12タッピングビス)で固定します。
同様に(リアミッションマウント)をはめ込んだ(ミッションケース)も作ります。(次ページで使用)

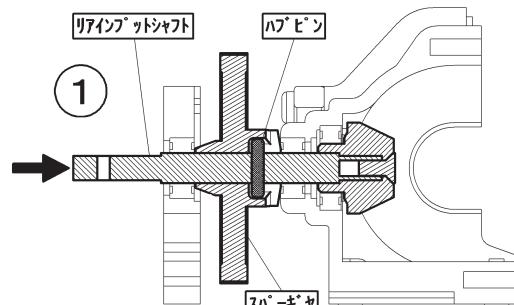
注意！— (M2.6x6皿ビス)は、しっかりとしめ込んで下さい。



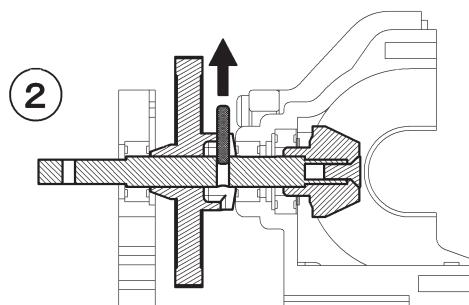
4 リアミッションケースの組立て



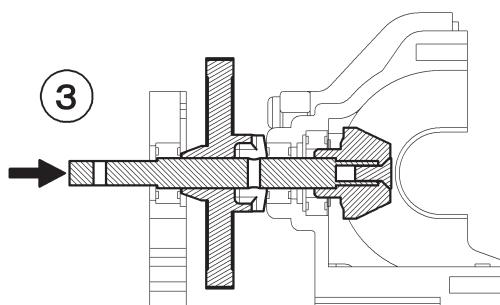
1ポイントアドバイス！ スパーギヤの取外し方



ミッショングエスキヤップ、リジットジョイント、センタードライブカップを外しリヤインプットシャフトを後方へづらす。

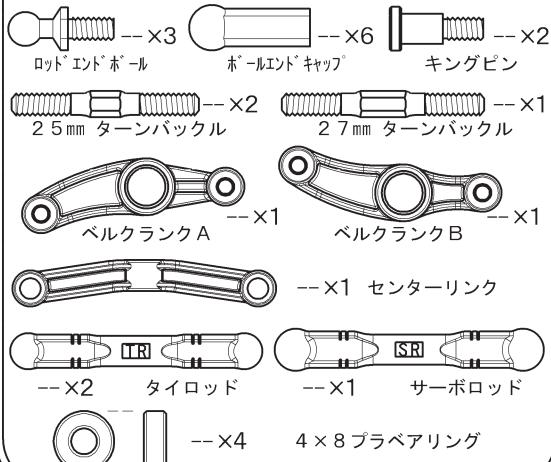


スパーギヤのミゾからハブピンが見える位置までリヤインプットシャフトをズラしハブピンを抜く。(ハブピンが抜けやすい場合は、薄くゴム系接着剤などを塗って下さい。)



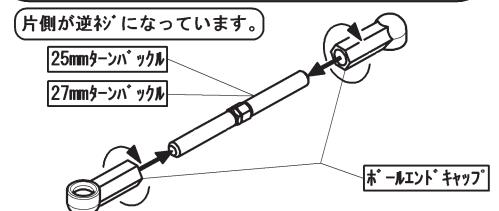
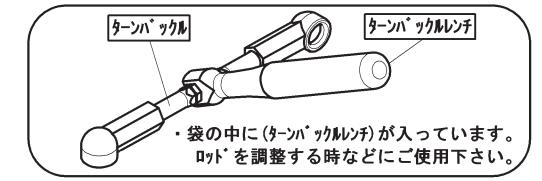
リヤインプットシャフトを完全に引き抜きスパーギヤを上から抜く。(再組立時は逆の手順で行います。)

【袋-④ の内容】



各タイロッドの組立て

タイロッドは一体式と調整が可能なターンバックル式が入っています。好みによりどちらかをご使用下さい。(ターンバックル式は下図に示す組立が必要になります。)



各ロッド共、下記寸法で作成して下さい。

25mmターンバックル(2ヶ作る)

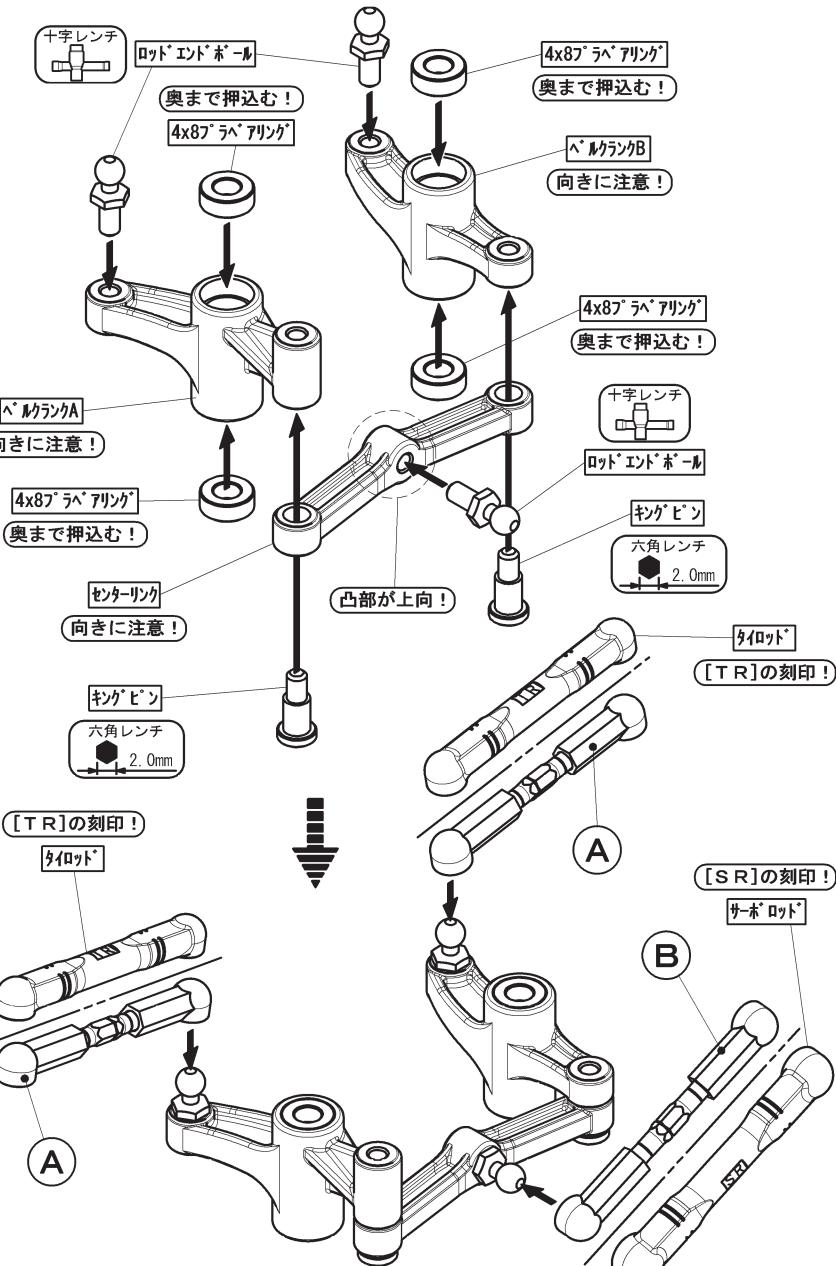
約42.5mm

27mmターンバックル(1ヶ作る)

約47.5mm

使用するサーボにより長さを調整します。

5 ベルクランクの組立て

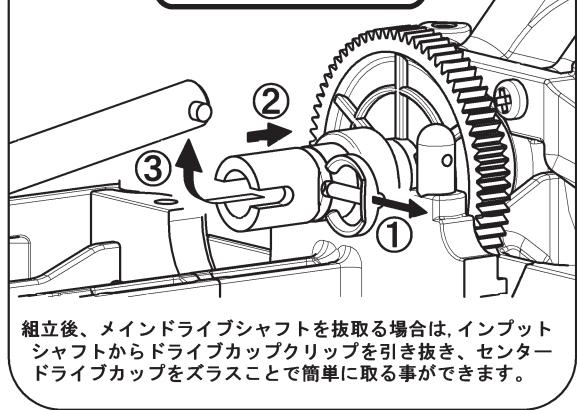


一体式ロッド、又はターンバックル式ロッドをイラストのように取付けます。ターンバックル式を取付ける場合は、ネジ方向をそろえて取付けておくと長さ調整が簡単にできます。

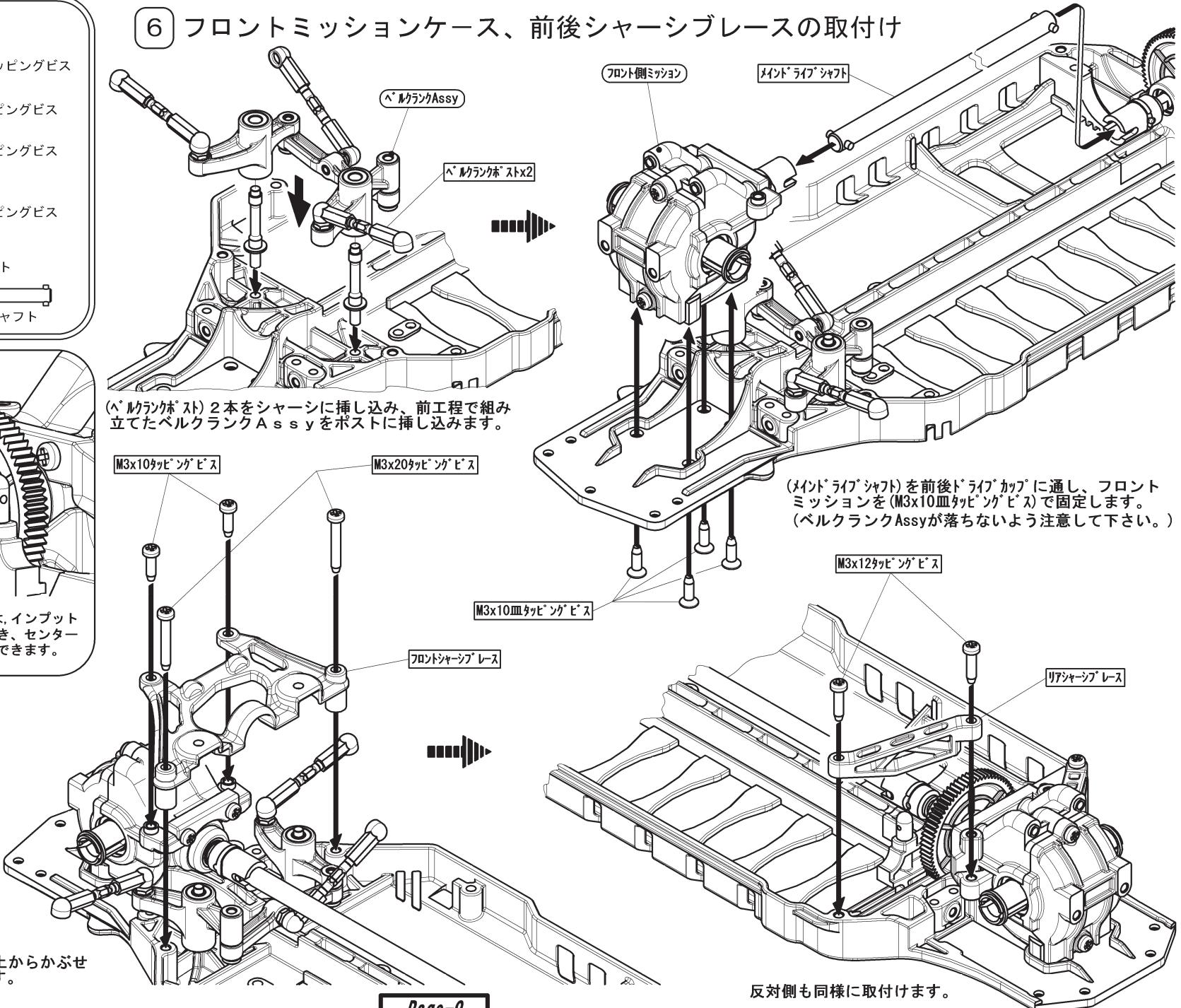
【袋一⑤ の内容】

	--x4	M3×10 フラットヘッドビス
	--x2	M3×10 カウンターリングビス
	--x4	M3×12 カウンターリングビス
	--x2	M3×20 カウンターリングビス
	--x2	ベルクランクポスト
	--x1	メインドライブシャフト

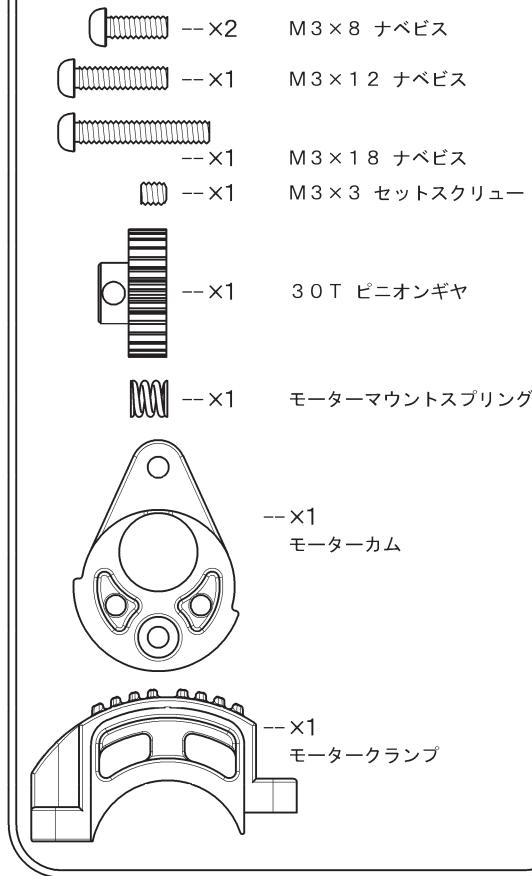
1ポイントアドバイス！



6 フロントミッションケース、前後シャーシブレースの取付け

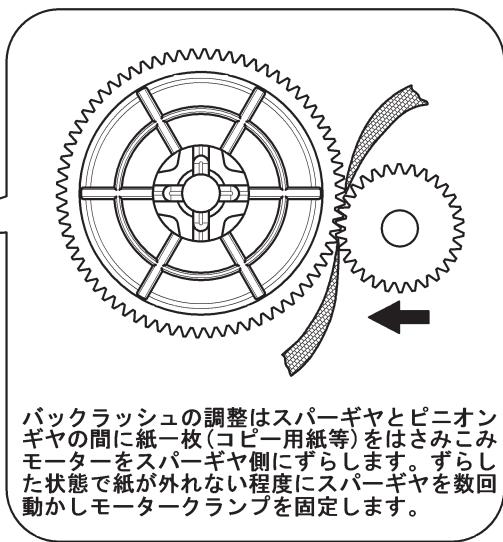
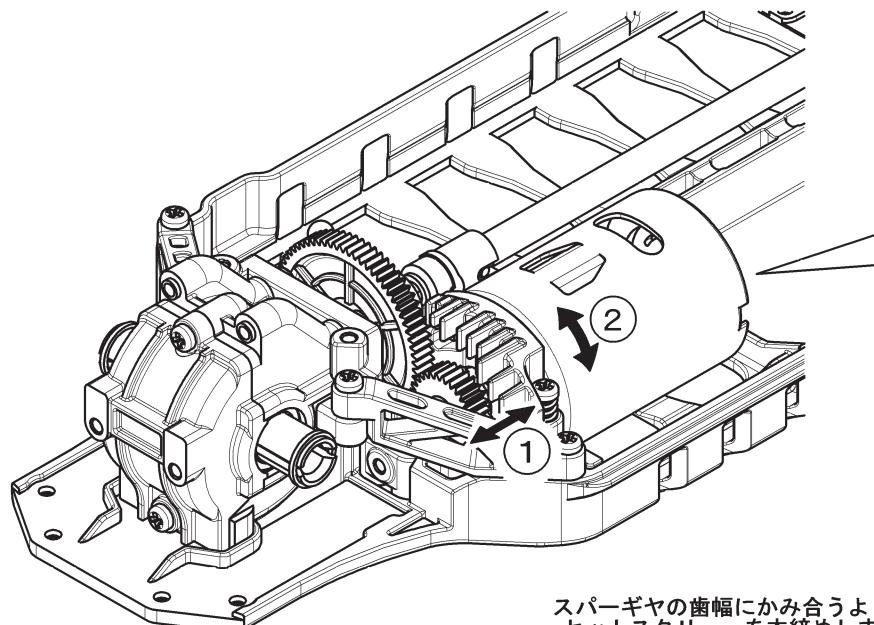
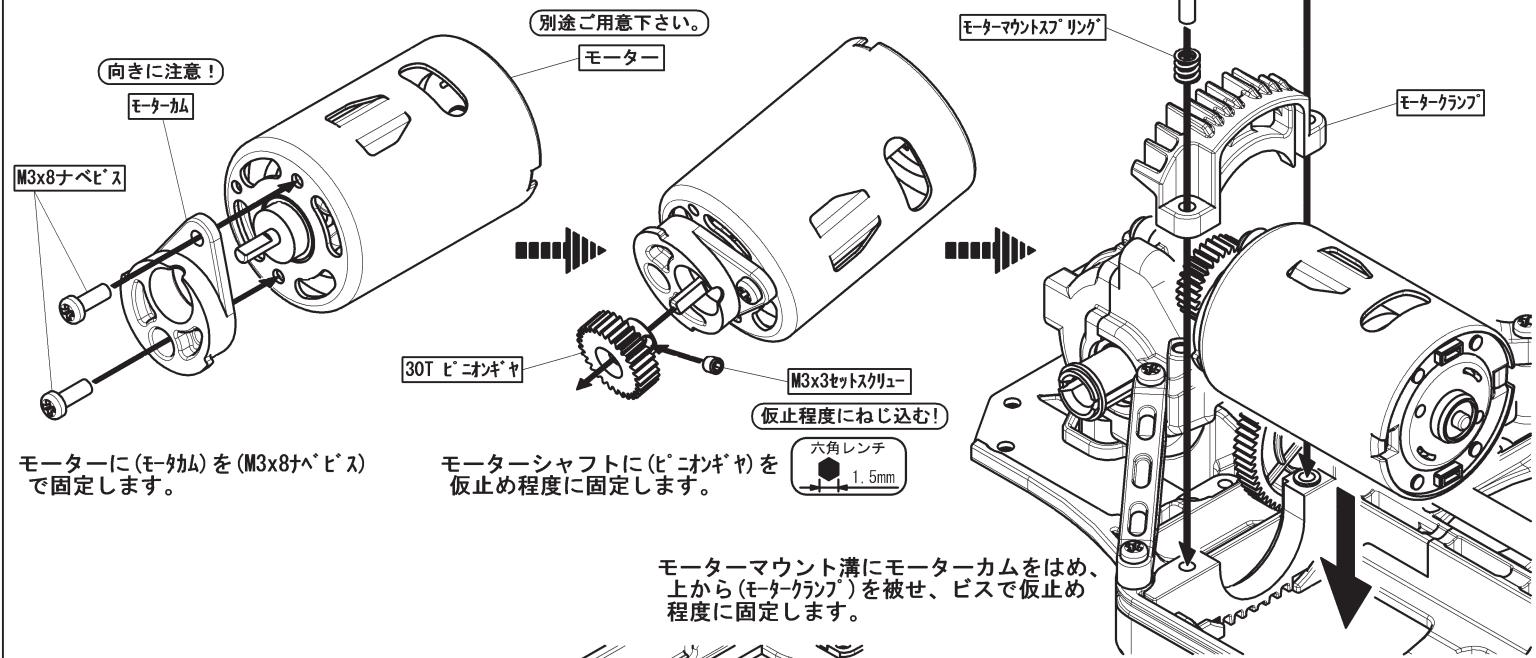


【袋一⑥ の内容】



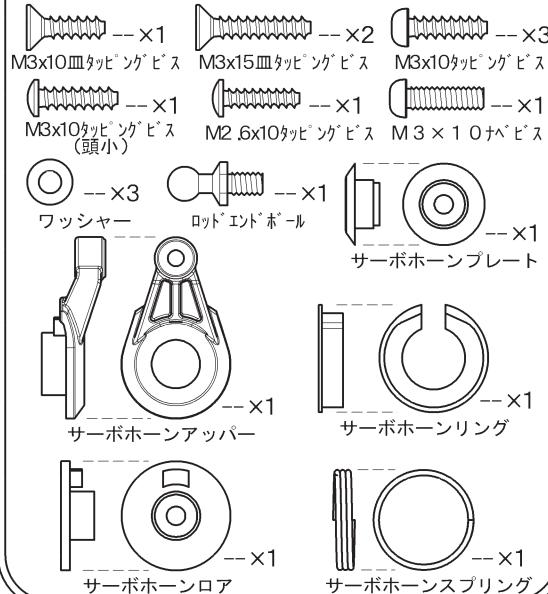
- 注意！①キットには、モーターは含まれておりませんので、別途ご用意下さい。
 ②ピニオンの取付けは、モーターシャフトの(Dカット)されている部分に、セットスクリューが当たる様にしっかりと締め込んで下さい。
 ③バックラッシュは少し隙間が出来る程度に調整して下さい。(調整不足は、ノイズ及びギヤ破損の原因になります。)
 ④連続走行はモーターに必要以上の負荷を掛けるだけでなく寿命も短くなりますので、完全に冷えた事を確認してから走行をさせて下さい。

7 モーター、ピニオンギヤの取付け

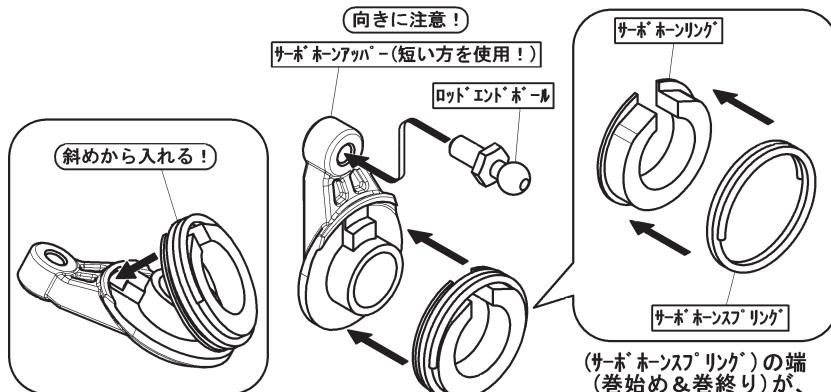


スパーギヤの歯幅にかみ合うようにピニオンギヤの位置を調整し、
セットスクリューを本締めします。最後にバックラッシュを合わせ
M3×12ナベビスを先にしめ込んだ後、M3×18ナベビスを
スプリングが密着する位までしめ込み、そこから1回転戻します。

【袋一⑦の内容】



8 サーボセーバー、サーボの取付け

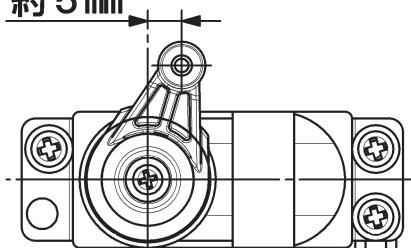


(サーボホーンアッパー)は2種類付属されていますが、全長の短い方を使用します。
(サーボホーンリング)のはめ込みが固い場合は、イラストの様に斜めから入れて下さい。

(サーボホーンスプリング)の端(巻始め&巻終り)が、(サーボホーンリング)の切れ目にかかるないように取付けて下さい。

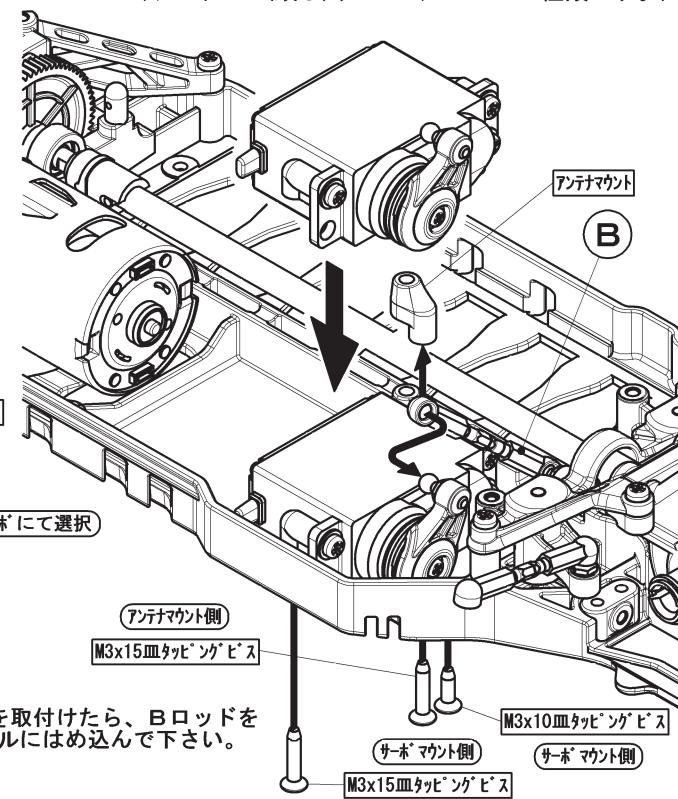
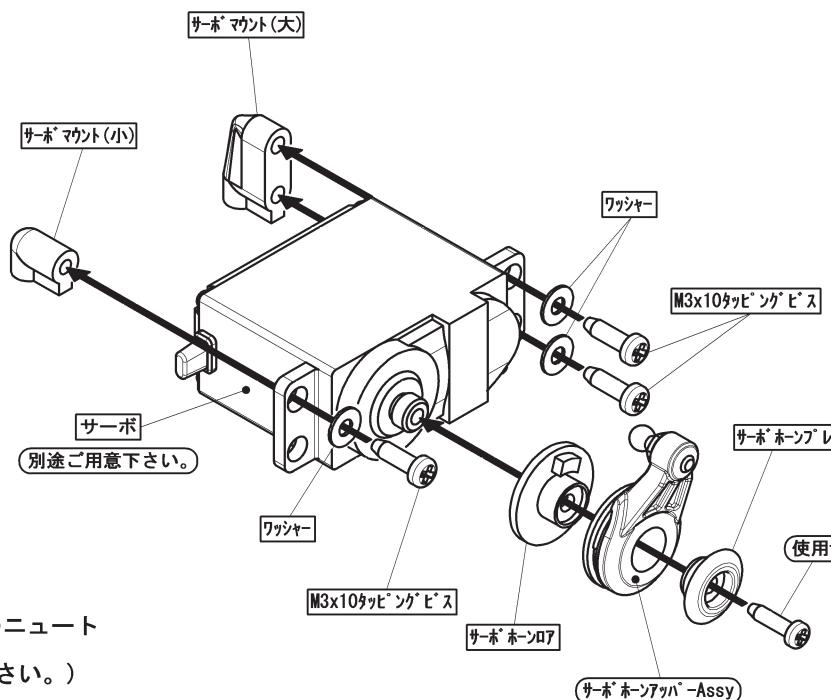
付属の(サーボホーンア)には刻印が入っています。
ご使用になるメーカーに合わせてお選び下さい。

約 5 mm



サーボのニュートラルを出した後、イラストのようにサーボホーンを約5mm(1山分)ずらして取付けて下さい。

注意! ①サーボホーンを固定するビスは、使用するサーボに付属されているネジ部と同タイプのビスを使用して下さい。(本キット付属のビスは、トラスM2.6x10タッピングビス、M3x10タッピングビス(頭小)、M3x10ナベビスの3種類です。)

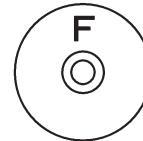


シャーシにサーボを取り付けたら、Bロッドをロッドエンドボールにはめ込んで下さい。

注意! ②(サーボホーンア)を取付ける前に必ず、サーボのニュートラルを出して下さい。

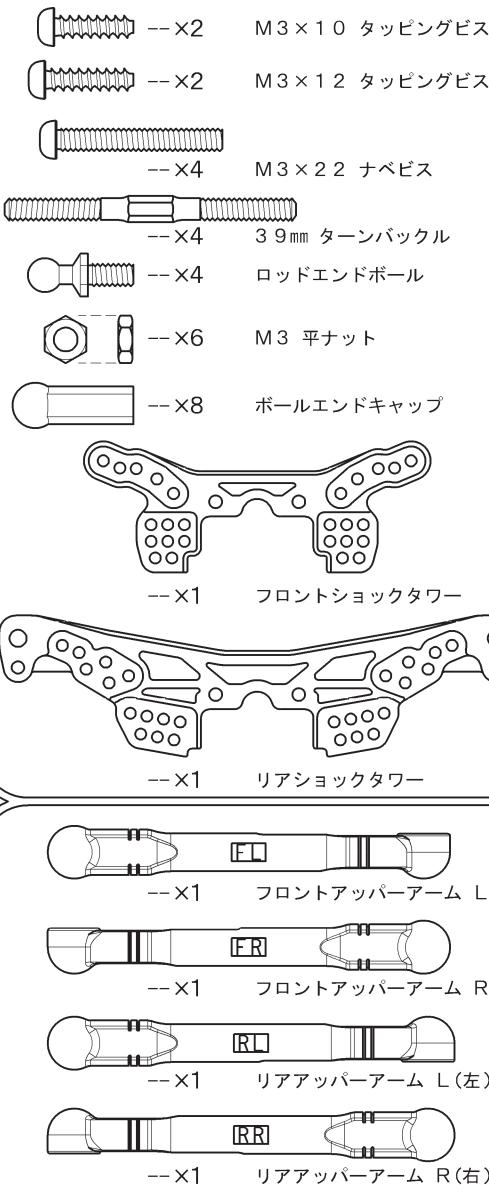
(詳しくはプロポセットの説明書をご覧下さい。)

③キット付属の(サーボホーンア)は3種類用意されています。
必ずご使用になるサーボ(メーカー)に合ったホーンをお使い下さい。
(形が合わないサーボホーンを使うとサーボに無理な力が掛かり、故障の原因になります。)



刻印	メーカー
F	フタバ
H	ハイテック
J K S	J R, K O, サンワ

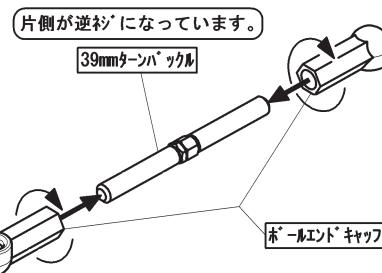
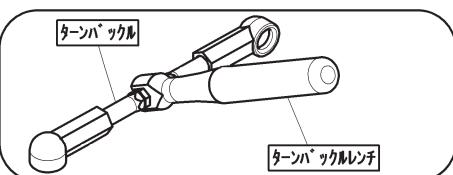
【袋一⑧ の内容】



9 前後アッパーームの組立て

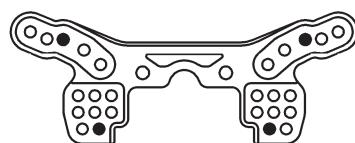
アッパーームの組立て

アッパーームは一体式と調整が可能なターンバッカル式が入っています。好みによりどちらかをご使用下さい。(ターンバッカル式は右図に示す組立が必要になります。)

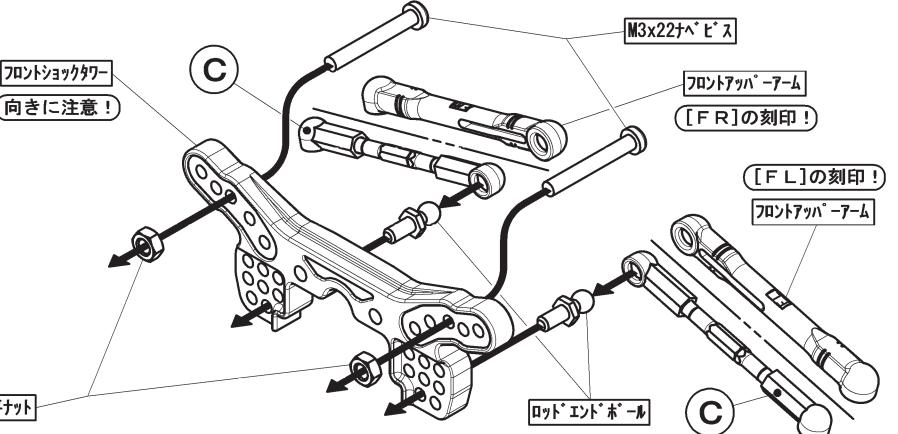


ボールエンドキャップの向きは、車体取付時に調整して下さい。

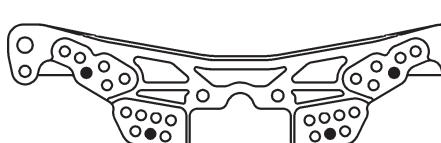
フロントショックタワーに取付け



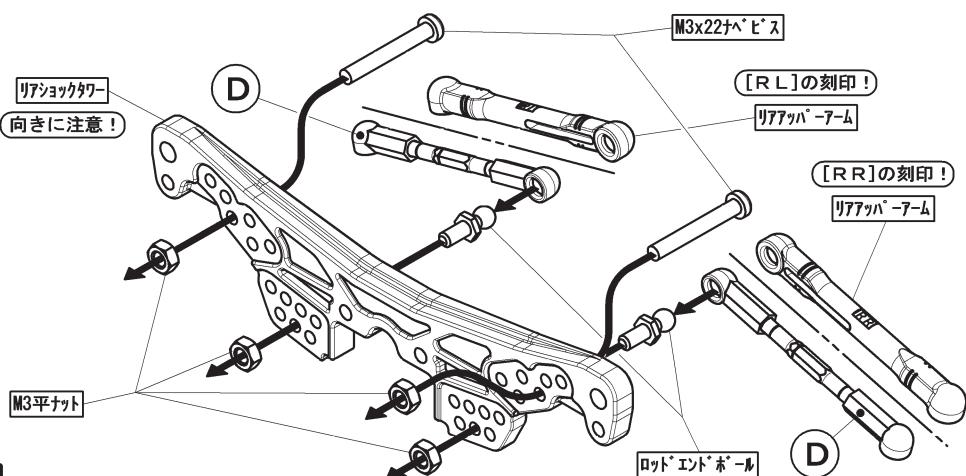
●部の穴を使用します。



リアショックタワーに取付け



●部の穴を使用します。

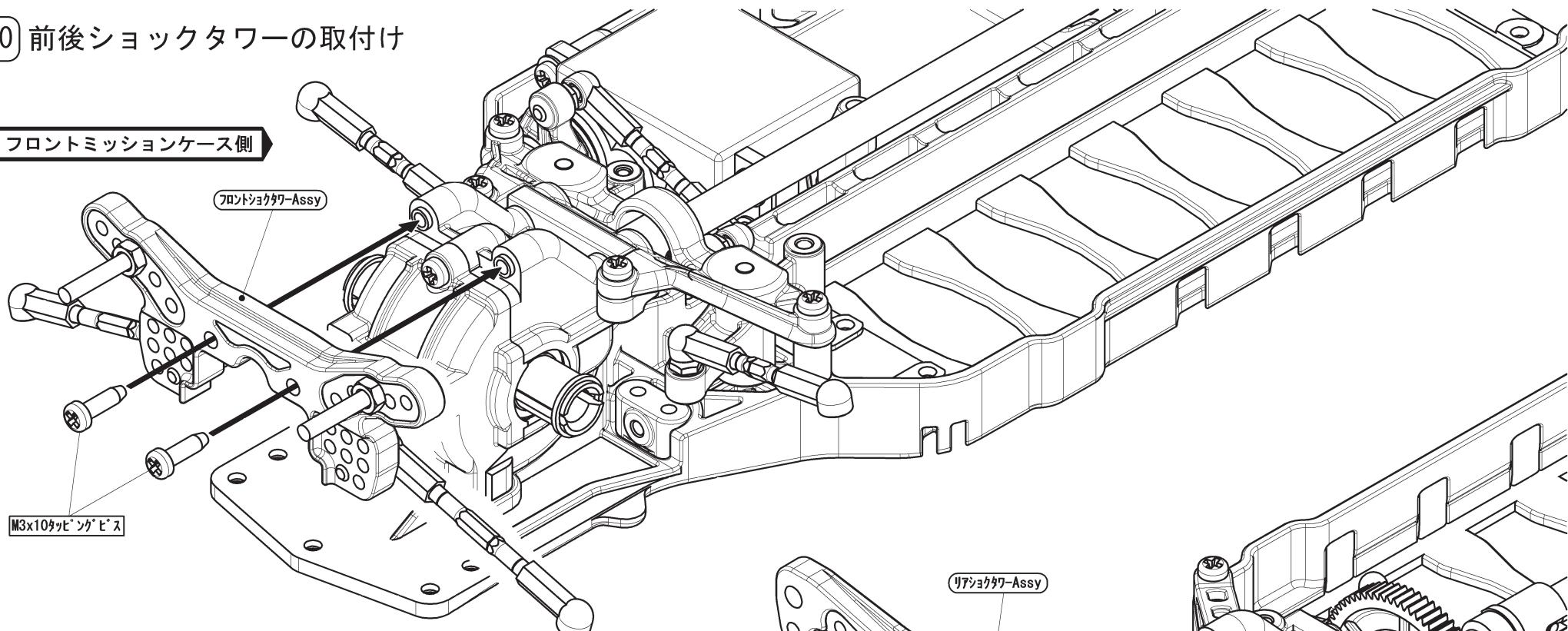


一体式アーム、又はターンバッカル式アームをイラストのように取付けます。ターンバッカル式を取付ける場合は、ネジ方向をそろえて取付けておくと長さ調整が簡単に行えます。

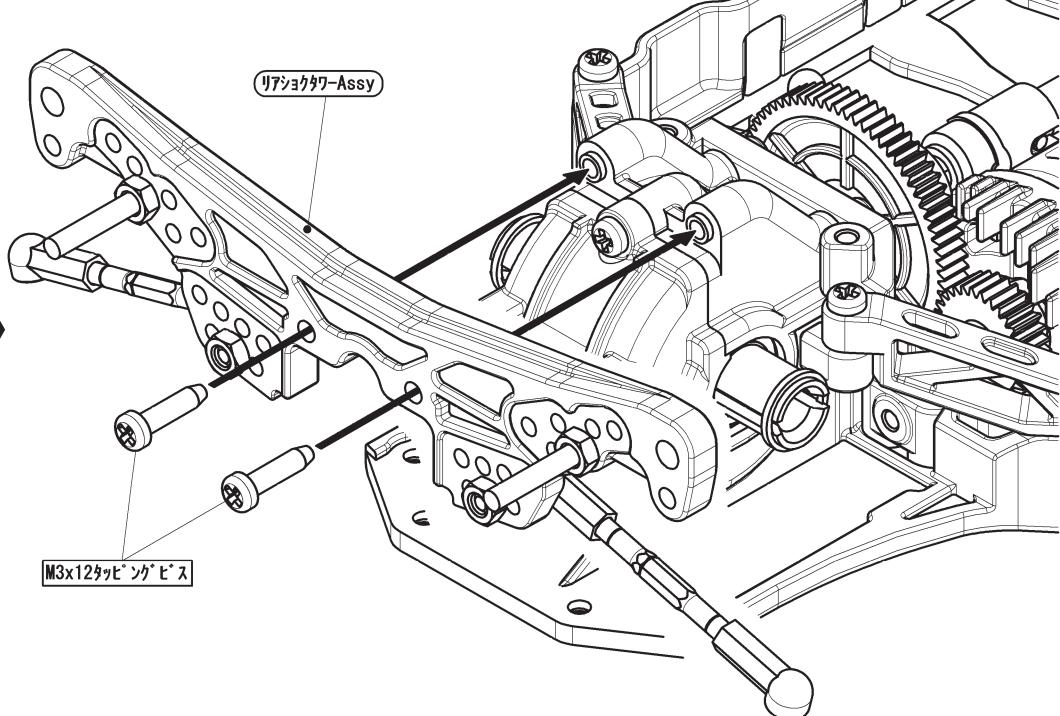
注意！一前後ショックタワーには取付け向きがありますので注意して下さい。

10 前後ショックタワーの取付け

フロントミッションケース側

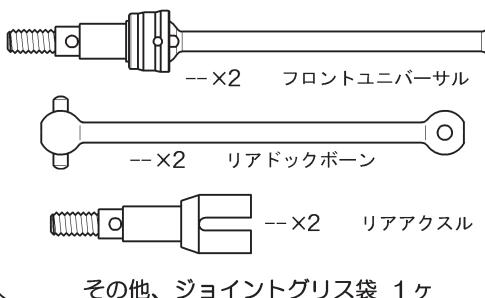


リアミッションケース側

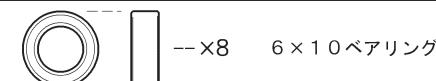
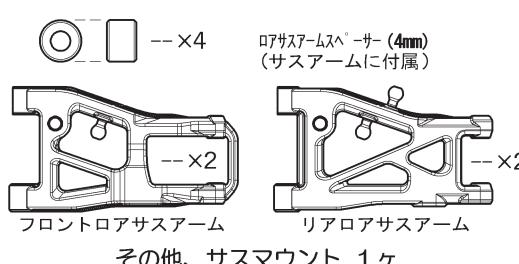
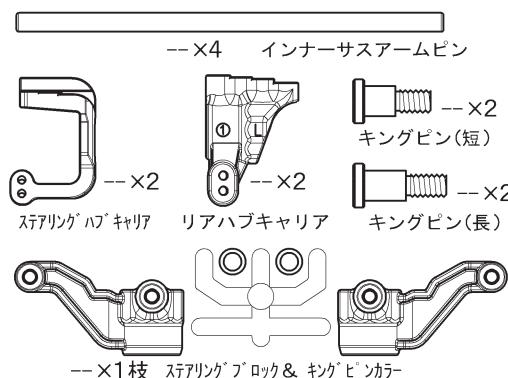
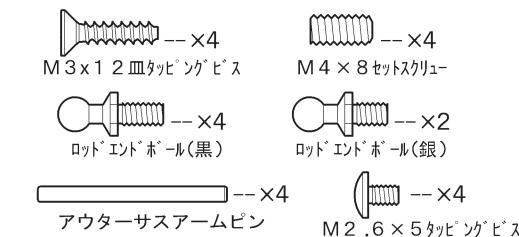


注意！—フロントショックタワー、リアショックタワーを
取付ける時は、前後ミッションケースの凸部に
しっかりとはめ込み指定のビスで固定して下さい。

【袋-⑨ の内容】



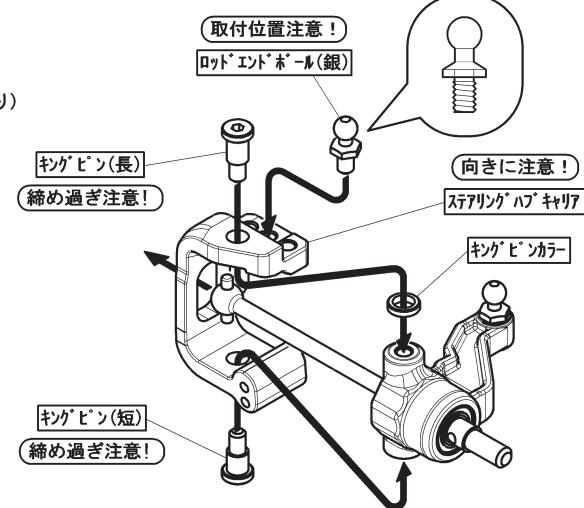
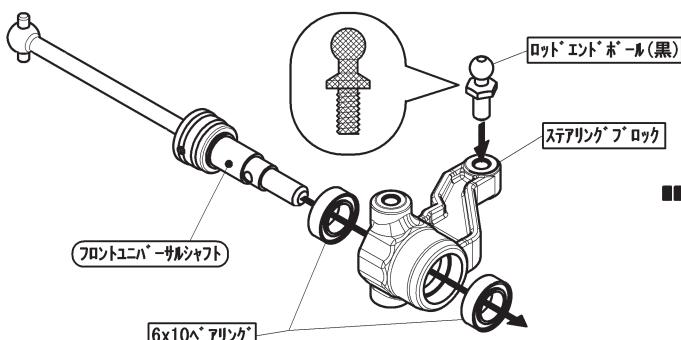
【袋-⑩ の内容】



11 フロント&リアハブキャリアの組立て

フロントハブキャリアの組立て

2セット作ります。(ステアリングハブキャリアには左右あり)

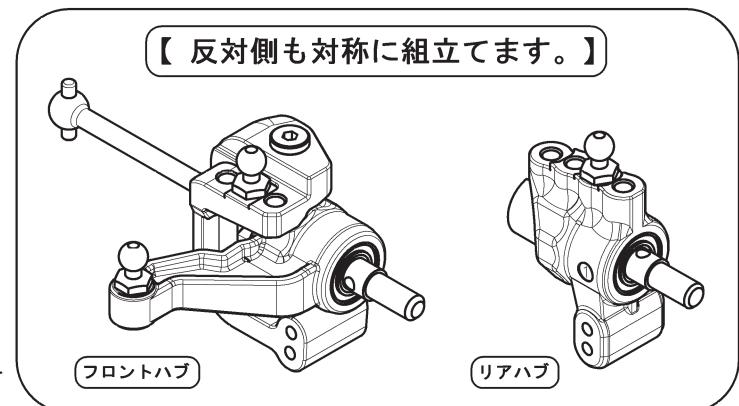
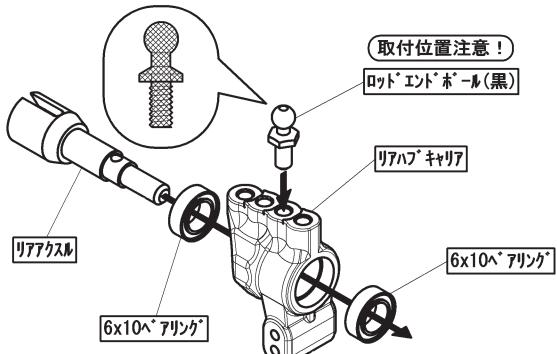


注意！①(ステアリングハブキャリア)は左右があります。

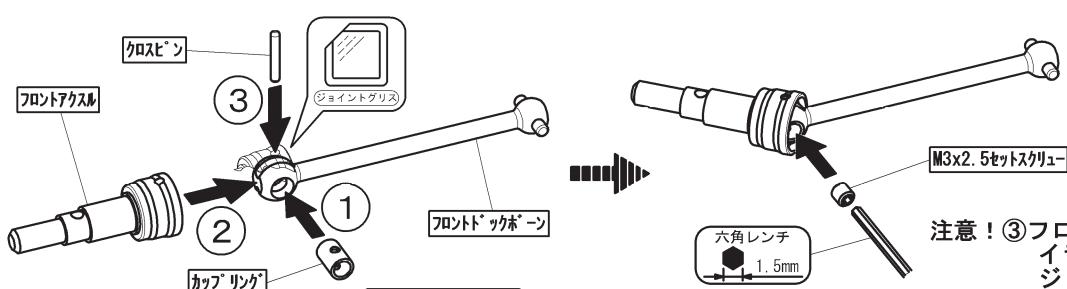
②(キングピン長)を取付ける時は(キングピンカラー)を押し
つぶさないよう注意してしめ込んで下さい。
(つぶれてしまうと動きが悪くなります。)

リアハブキャリアの組立て

2セット作ります。



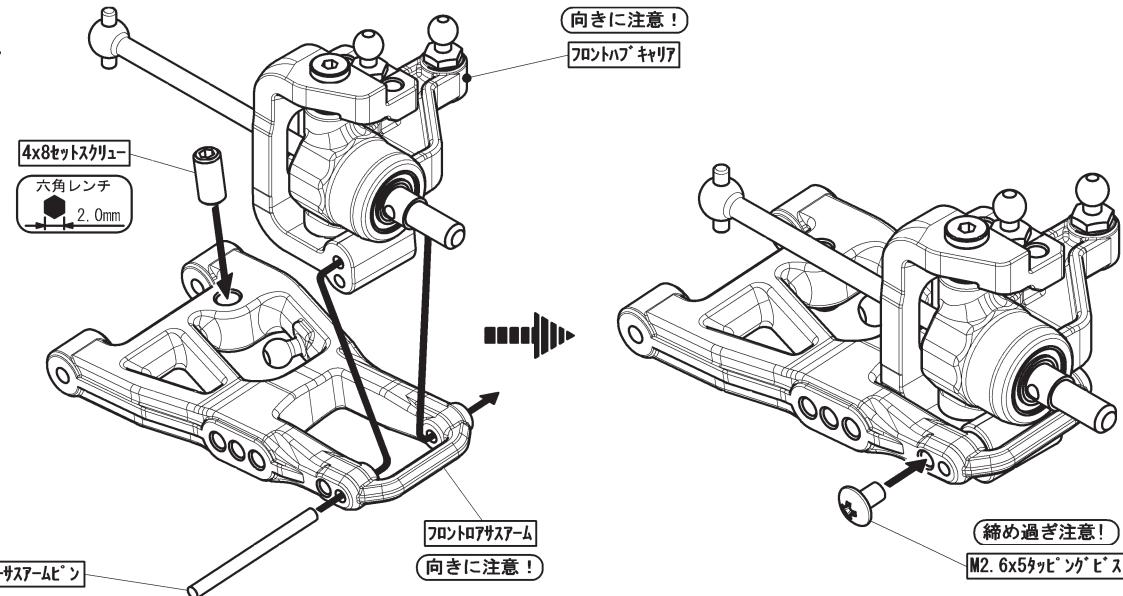
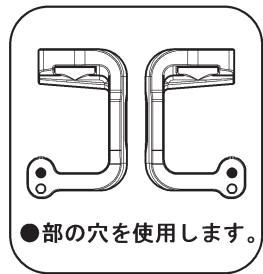
フロントユニバーサルシャフトの組立て方



注意！③フロントユニバーサルを組立てる場合は左
イラストを参照して下さい。その際必ず
ジョイントグリスを塗って下さい。
(別売のブラックグリスでも代用出来ます。)

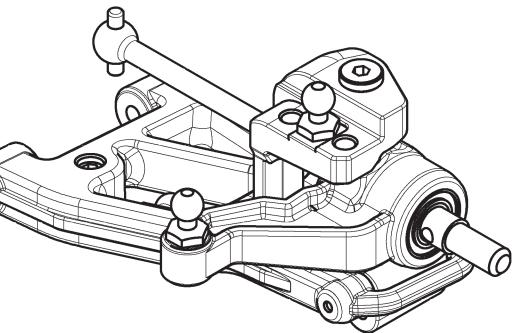
12 ロアサスアームの組立て

フロント側の組立て



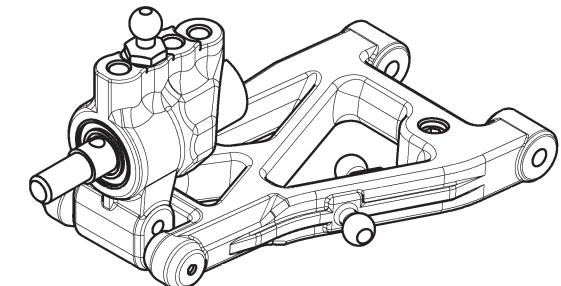
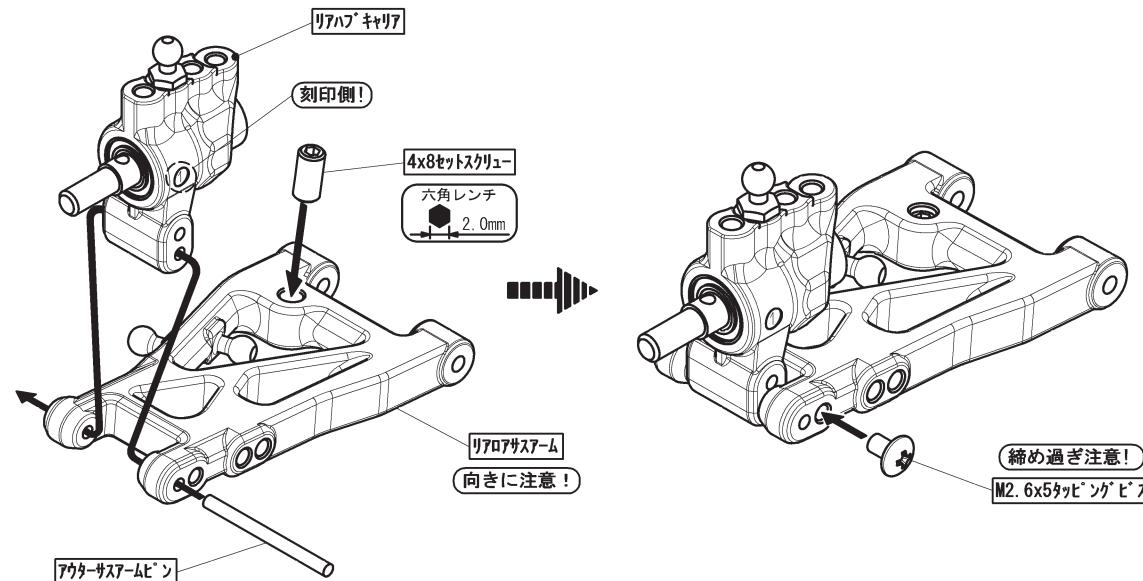
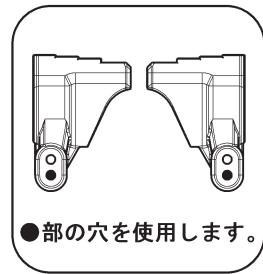
M 4 × 8 セットスクリューは、フロント側が
ロアアーム下側約2mm程度出るまで、リア側
は飛び出さない程度まで締め込んで下さい。

注意！—(M2.6x5タッピングビス)をねじ込む時は、奥まで
締めた後、1/4回転程戻して下さい。
(締み過ぎるとアームの動きが渋くなります。)

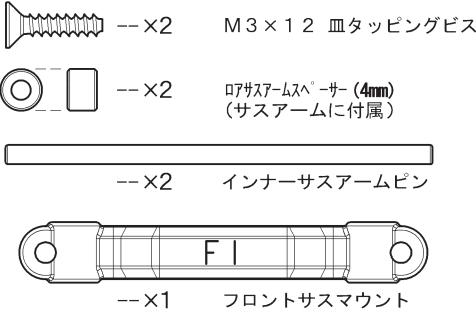


【 反対側も対称に組立てます。】

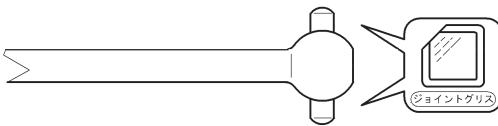
リア側の組立て



【このページの使用パーツ】



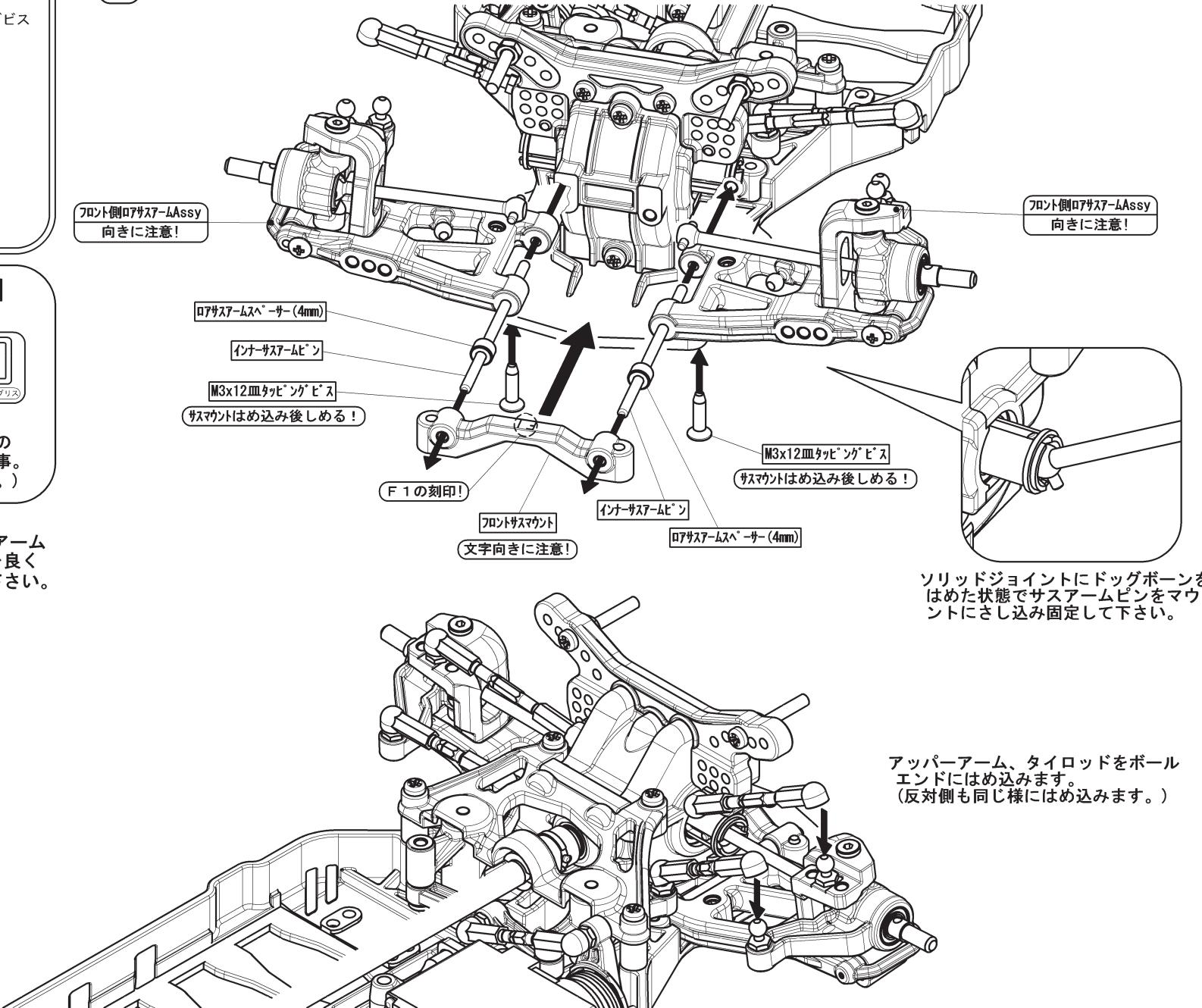
【取付け前にちょっと注目！】



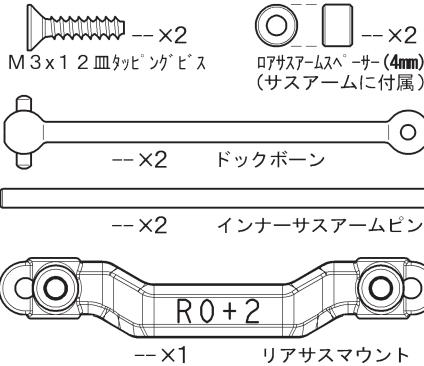
- フロント、及びリアドックボーンシャフトのピンには必ず(ジョイントグリス)を塗る事。
(別売のブラックグリスでも代用出来ます。)

注意！①前工程で組立てたフロントロアサスアームには、左右の向きがあります。図を良く参考し間違いの無い様に組立てて下さい。

13 フロントロアサスアームの取付け



【このページの使用パーツ】



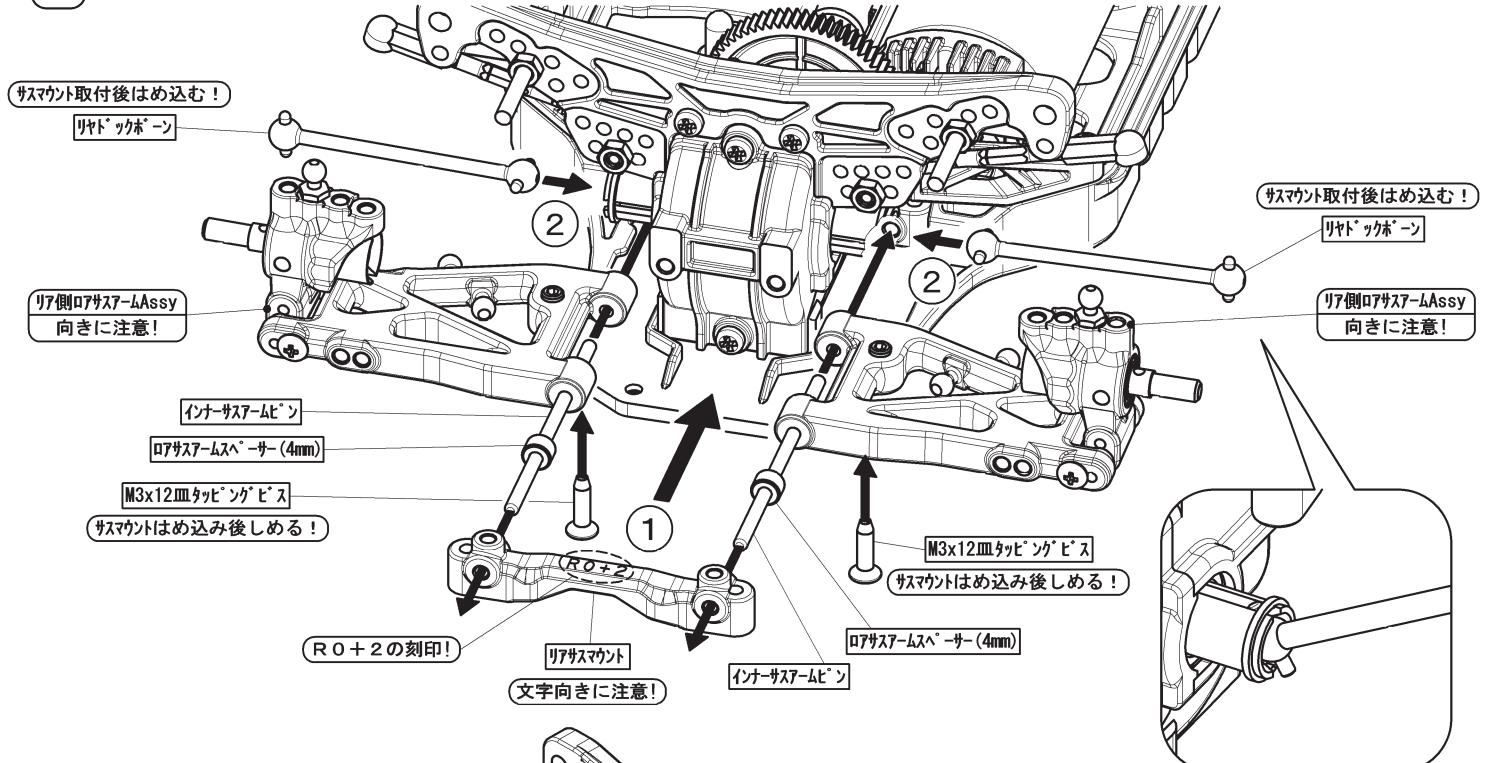
【取付け後に確認!】



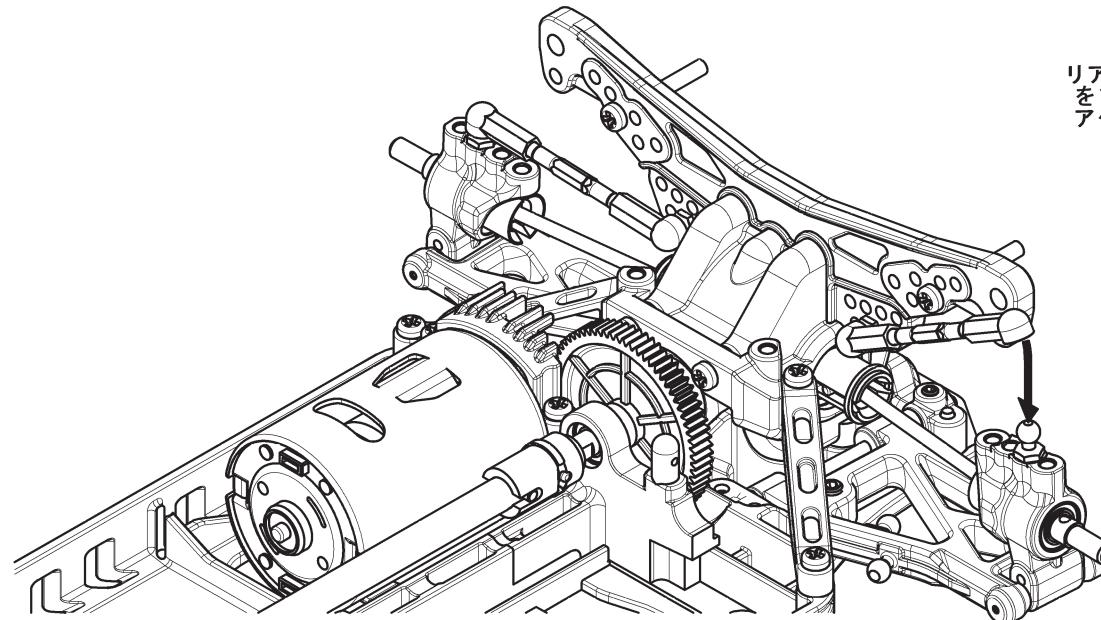
サスアーム取付け後、アームの作動が渋い場合は、サスマウント取付ビスのしめ込み過ぎによるサスアームピンの歪みが原因です。イラストで示すビス(2本)を一度ゆるめ、アームの作動を確認しながら直して下さい。あまり変化が見られないようでしたらこのビスを取り外して下さい。(ビスを取り外しても走行上の問題はありません。フロント側も同様に調整して下さい。)

注意！①前工程で組立てたリアロアサスマウントには左右の向きがあります。図を良く参照し間違いの無い様に組立てて下さい。

14 リアロアサスマウントの取付け

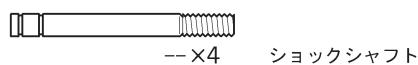


リアサスマウント取付け後、ドックボーンをソリッドジョイントにはめ込み、リアアクスルに差し込んで下さい。



アッパーアームをボールエンドに
はめ込みます。
(反対側も同じ様にはめ込みます。)

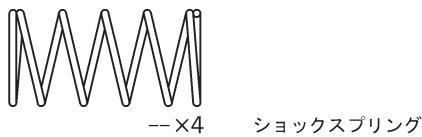
【袋-① の内容】



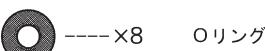
--×4 ショックシャフト



----×8 2 mm Eリング



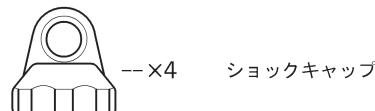
--×4 ショックスプリング



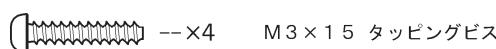
----×8 Oリング



--×4 Oリング(Φ10)



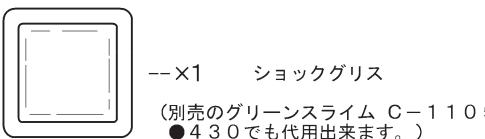
--×4 ショックキャップ



--×4 M3×15 タッピングビス

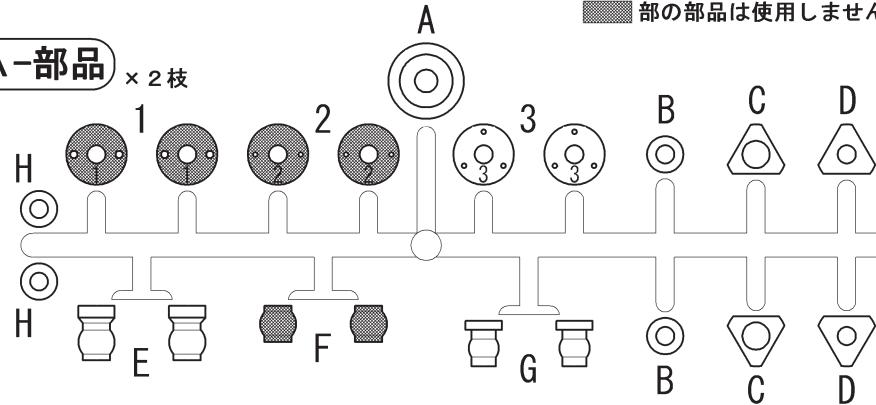


--×4 M3ナイロンナット



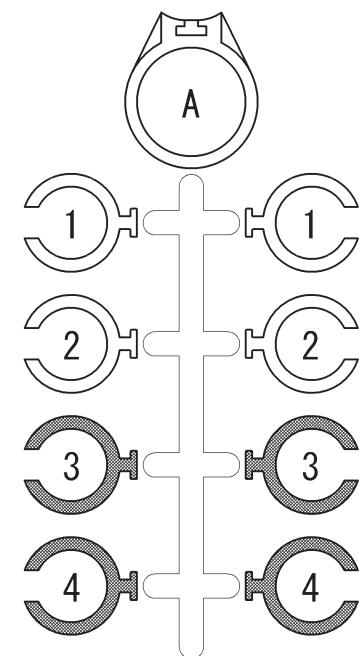
--×1 ショックグリス
(別売のグリーンスライム C-1105
●430でも代用出来ます。)

A-部品 × 2枝

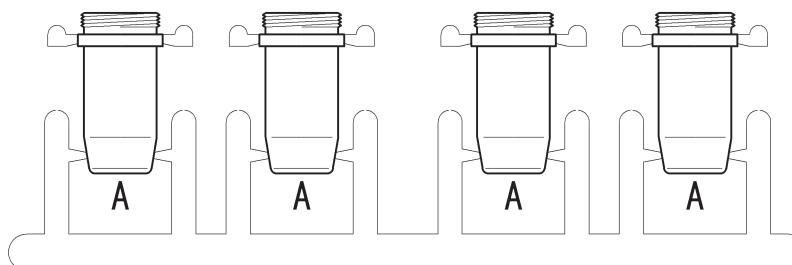


■ 部の部品は使用しません。

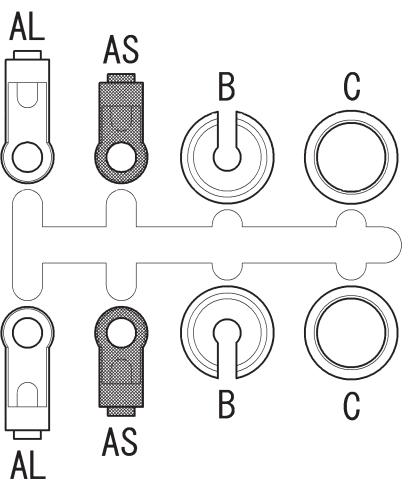
D-部品 × 1枝



B-部品 × 1枝

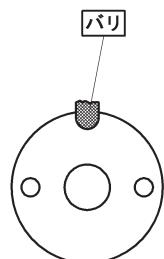
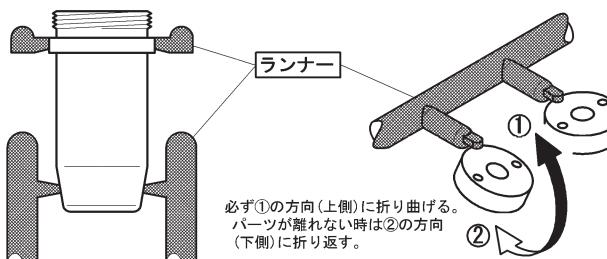


C-部品 × 2枝



【各ランナーから使用するパートを切り離す】

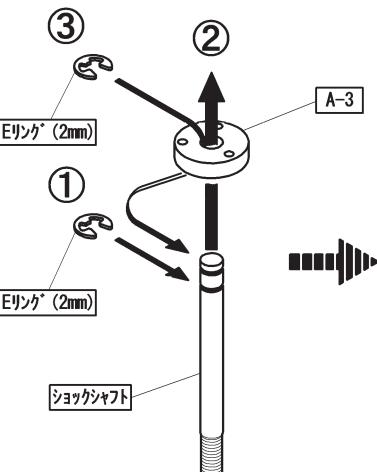
【バリはカッターで切り落とす】



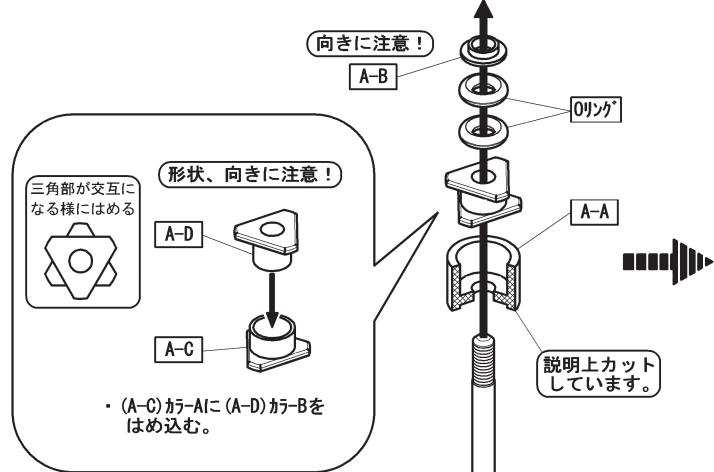
必ず①の方向(上側)に折り曲げる。
パートが離れない時は②の方向(下側)に折り返す。

注意！—ランナーからパートを切り離す際は、図の様に折り曲げ、もしくはニッパーなどで切り離して下さい。なお、パートにバリなどが残ってしまった場合は、カッターなどで丁寧に切り落として下さい。
(**(A-部品)**は主にダンパー内部で使用するパートの為、バリなどは絶対に残さないで下さい。バリが残っているとダンパーがスムーズに動かなくなります。)

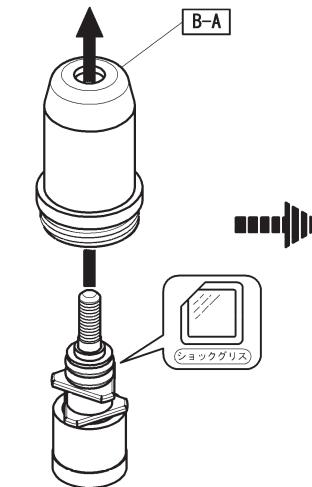
15 ダンパーの組立て(4本作ります。)



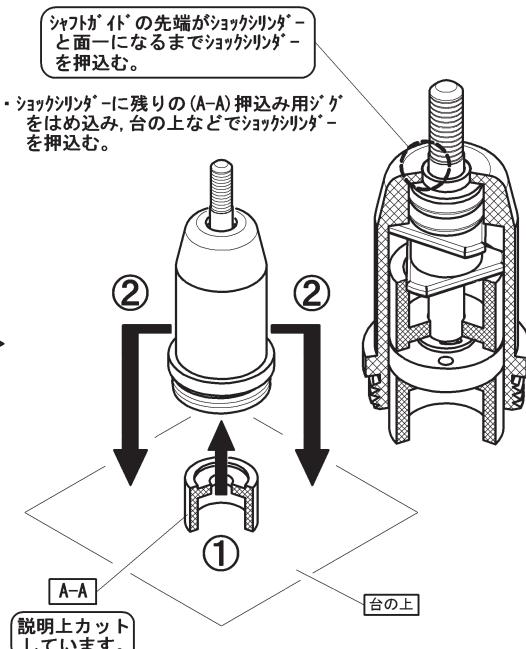
- ・(ショックシャフト)に(2mmEリング[®]), (A-3)
ピストンを番号通りにはめ込む。



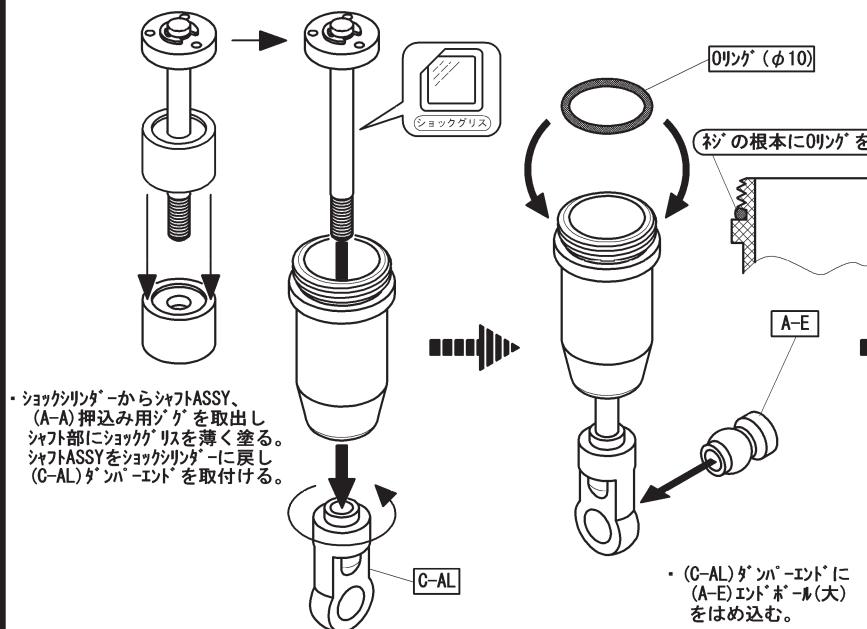
- ・ショックシャフトASSYに上記パーツを通す。
(パーツの向きに注意 !)



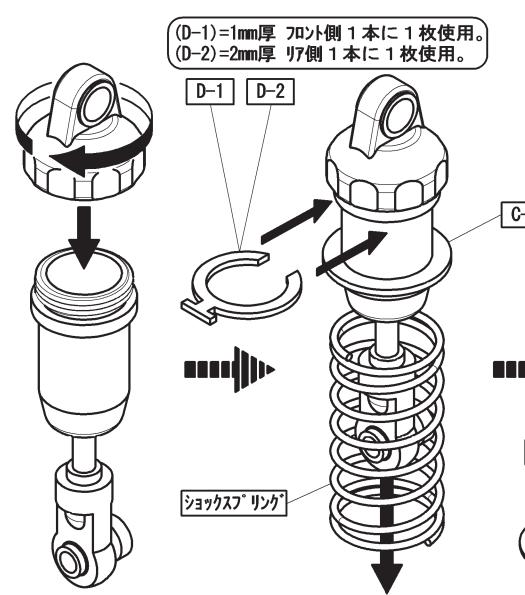
- ・0リング周辺にショックグリスを塗り
ショックシリンダーの中にピストンが
隠れる位まで押込む。



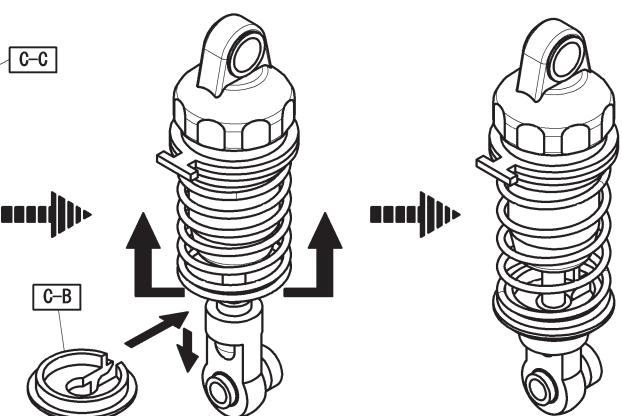
注意！ – (A-A) 押込み用ジグ 2 個はこの作業のみで使用します。
次工程のシャフトASSYをシリンダーに戻す際には
(A-A) 押込み用ジグ 2 個は使用しません。



- ・ショックシリンダーカラシャフトASSY、
(A-A)押込み用ジグを取り出し
シャフト部にショックワーリスを薄く塗る。
シャフトASSYをショックシリンダーエントに戻し
(C-AL)タングエントを取り付ける。



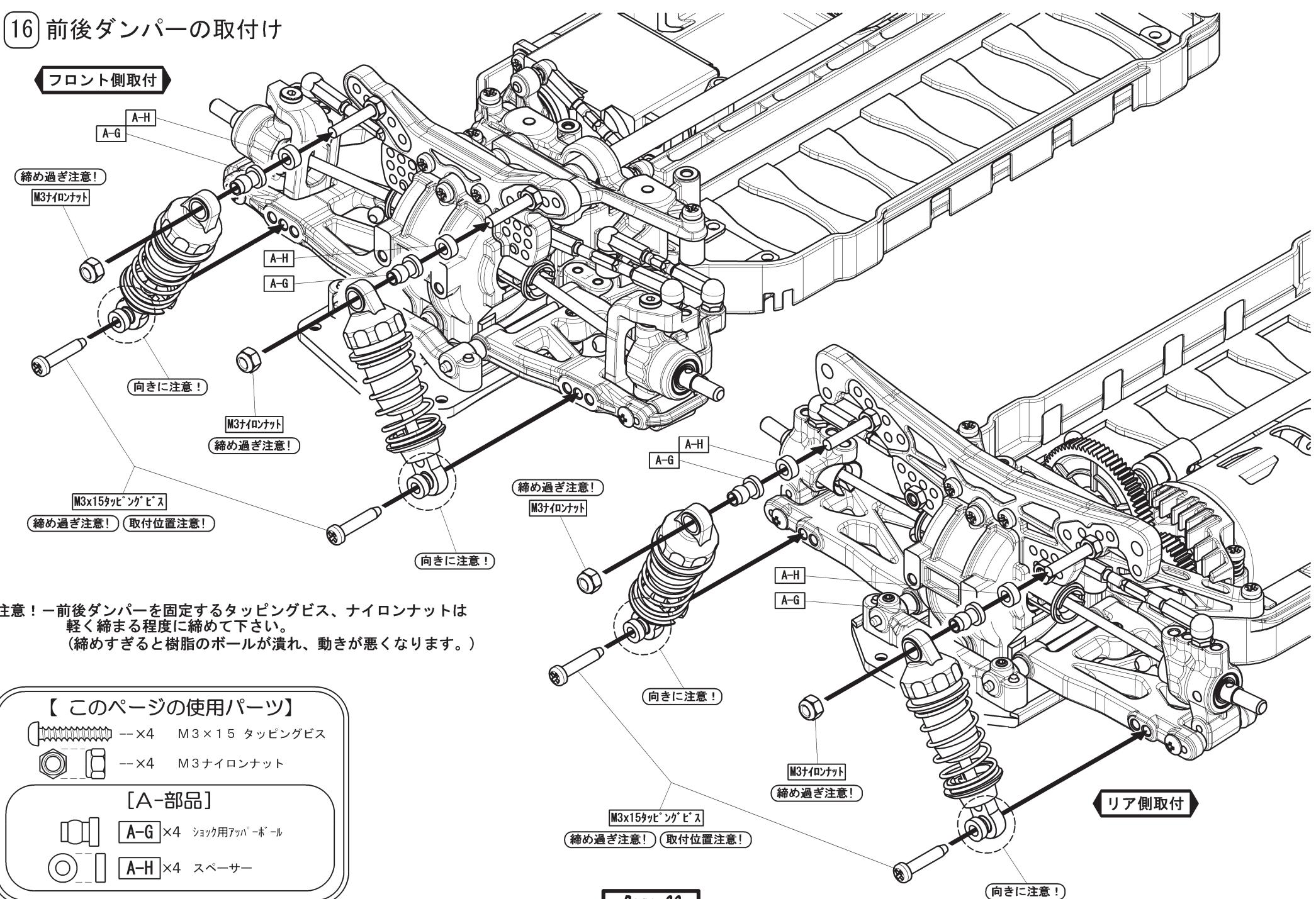
- ・(C-AL) タンパーエントに
(A-E) エントボール(大)
をはめ込む。



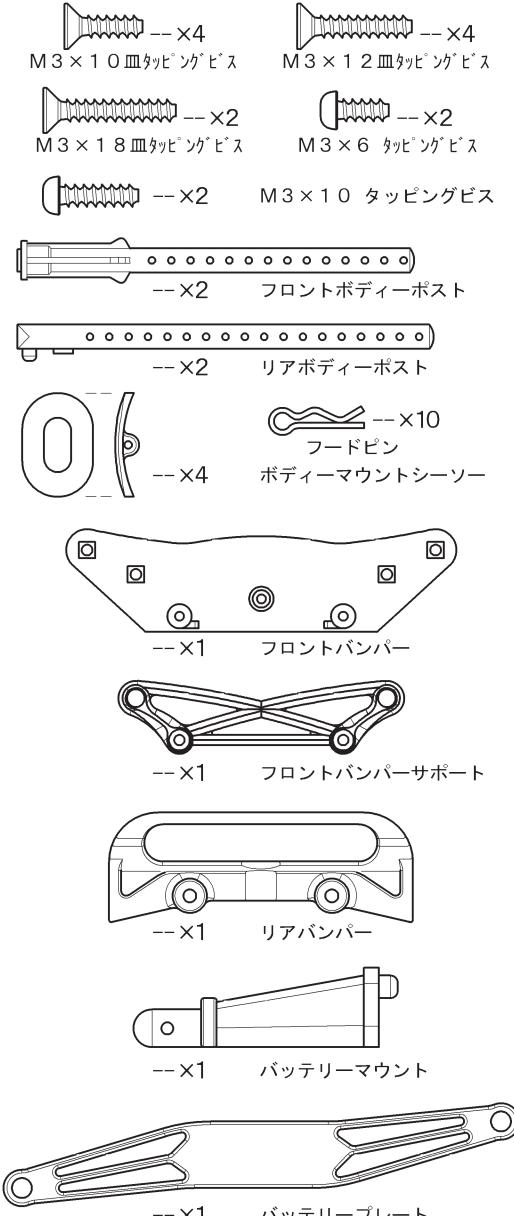
- ・ショックスプリングを押上げながら(C-B)スプリングストッパーをシャフトにはめ込む。

ダンパー
の完成！

16 前後ダンパーの取付け

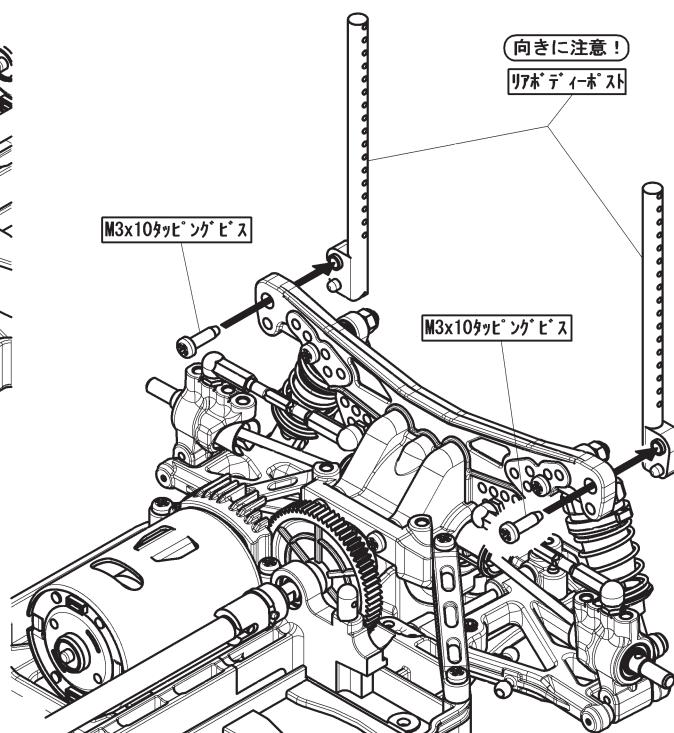
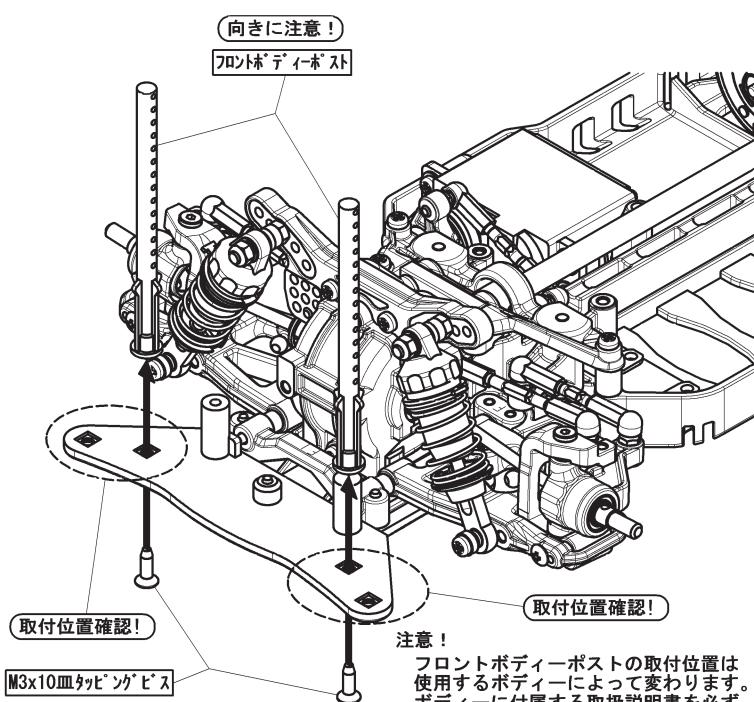
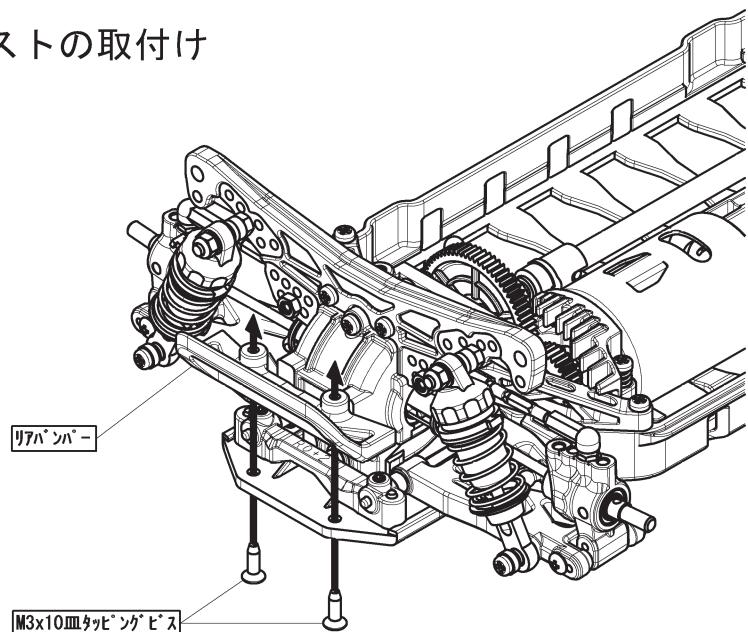
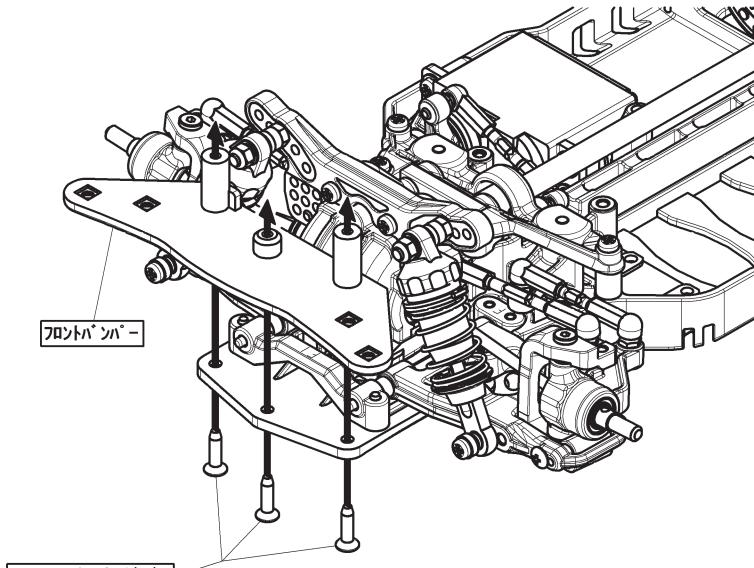


【袋一⑬ の内容】

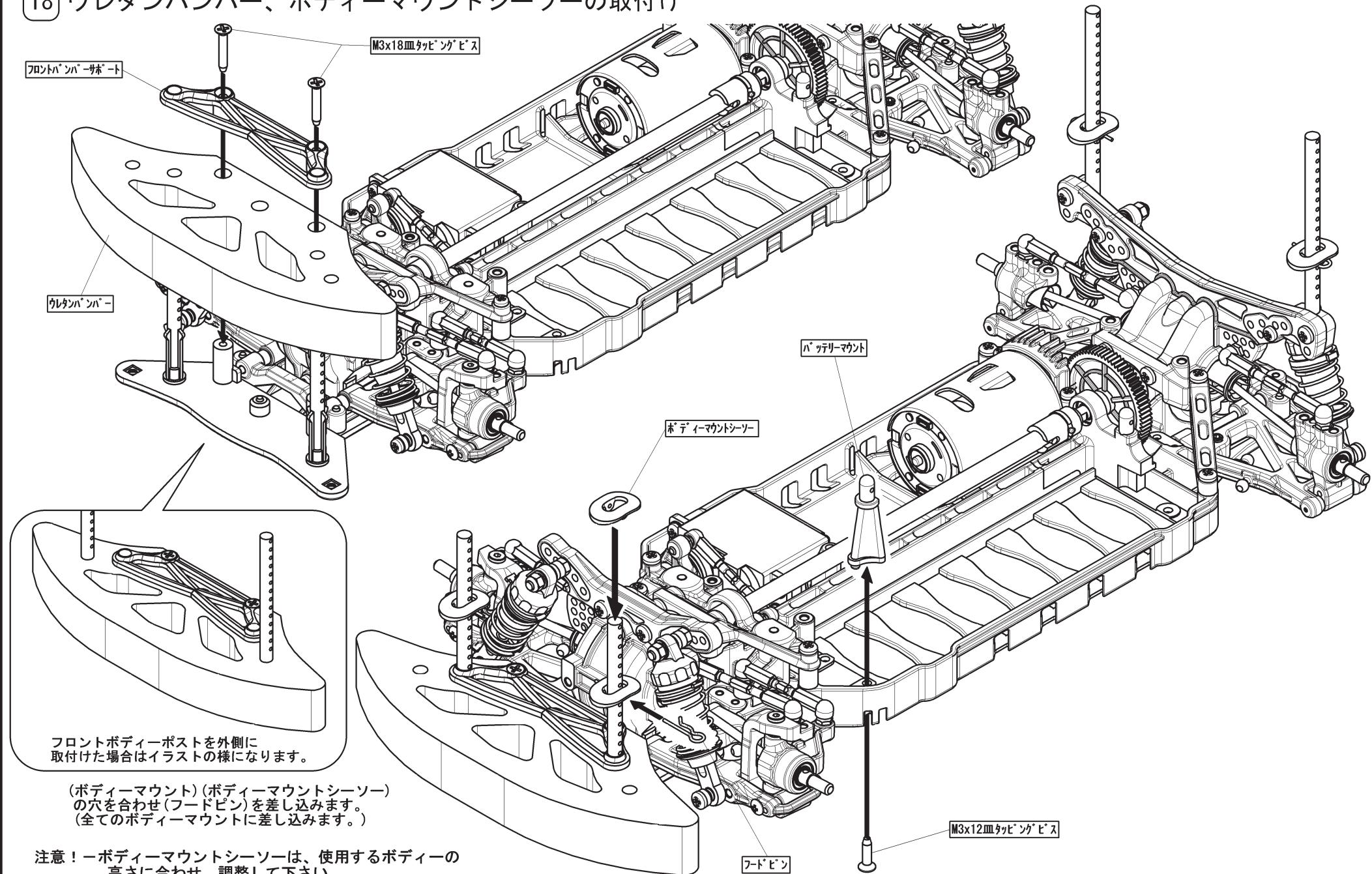


その他、アンテナキャップ、両面テープ
ギヤカバー 各1ヶ、ナイロンストラップ 2本
スポンジテープ 3枚

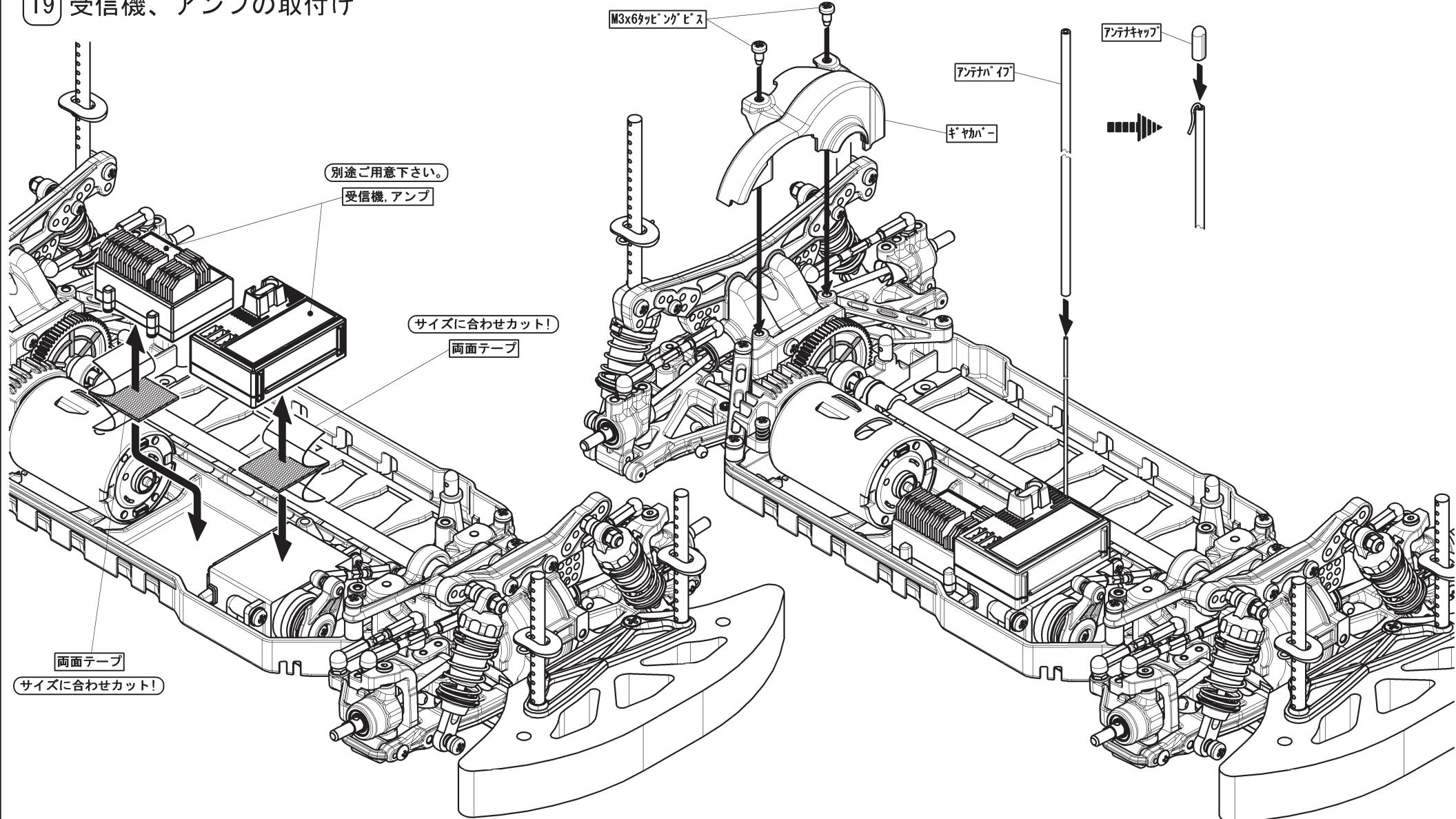
17 フロント&リアバンパー、ボディーポストの取付け



18 ウレタンバンパー、ボディーマウントシーソーの取付け



19 受信機、アンプの取付け

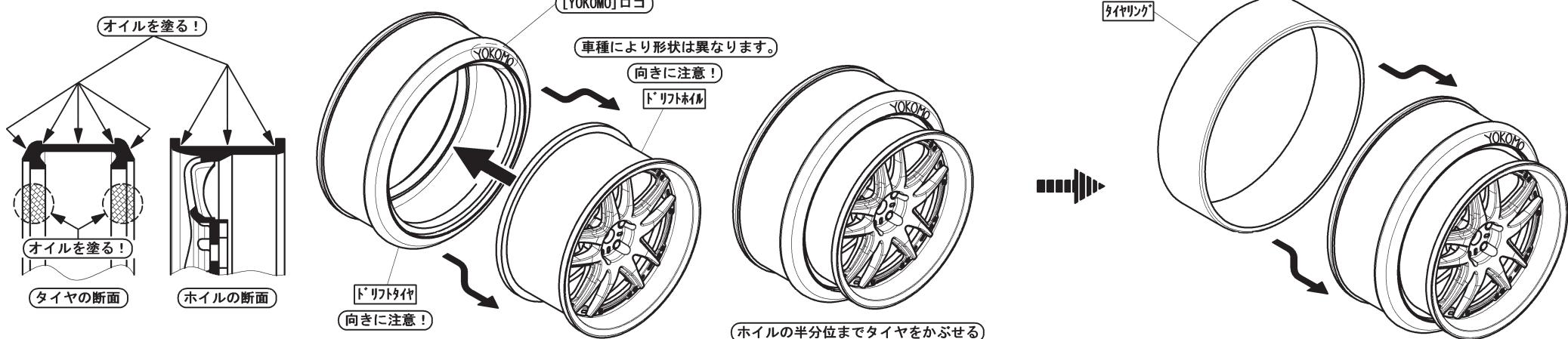


注意！①(受信機)(アンプ)の固定は付属の両面テープを使用し
シャーシにしっかりと固定して下さい。
(接着面をクリーナーなどで脱脂しておくと、はがれ
にくくなります。)

アンテナ線をイラストのようにアンテナマウントから
アンテナパイプに通し、先端が2cm位出た所で
アンテナパイプをマウントへ深めに差込み、アンテナ
キャップを被せて下さい。

注意！②余ったアンテナ線はメインドライブシャフトなどの
稼動部分に触れない様に束ねて下さい。

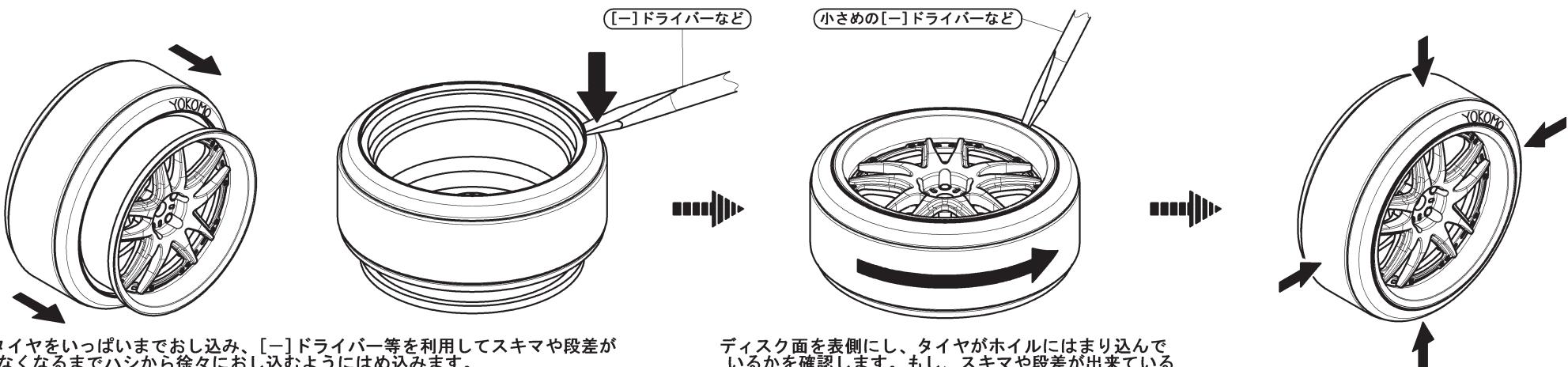
20 タイヤの組立て(本キットのタイヤは組立済です。スペアタイヤを作成する場合などに参照して下さい。)



ティッシュペーパーにCRC等の潤滑オイルを吹きつけ(ご家庭にあるサラダオイル等を使用するのもOK)、左イラストのように、
タイヤのトレッド面全周、タイヤ内側の両リブ全周、両サイドのクボミ全周、ホイルのリム幅面全周にタップリと塗りつけて下さい。
ホイルスプーク部とタイヤ[YOKOMO]ロゴの向きを確認し、右イラストのようにホイルの半分位までタイヤをかぶせた状態にします。
タイヤがはめ込みづらい時は、あらかじめお湯でタイヤをあたためておくと柔らかくなり作業がしやすくなります。

タイヤのミズにタイヤリングをしっかりとめ込みます。
(め込みが不十分だと次工程のホイルにはめ込む作業が
しづらくなります)

- 注意! ①(ドリフトタイヤ)には向きがあります。必ず中イラストのように[YOKOMO]ロゴがスプーク部と同じ向きに
くるようにめ込んで下さい。
②ホイルをランナーから切りはなす際に残るバリはカッター等で必ずきれいにとり除いて下さい。
③お湯を使用する時は、ヤケド等しないよう取扱いに十分ご注意下さい。
④無理な作業は思わぬケガ等をすることがありますので、ゆとりを持ってゆっくりと組立てて下さい。

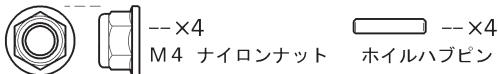


タイヤをいっぱいまでおし込み、「-」ドライバー等を利用してスキマや段差が
なくなるまでハシから徐々におし込むようにめ込みます。
(しっかりとめ込まれた状態は、タイヤとホイルがほぼツライチになります。
スキマや段差がない場合は、もみほぐしながらはめ込んで下さい)

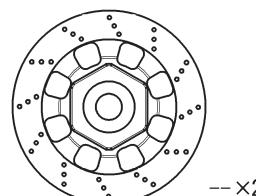
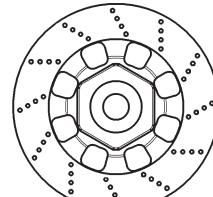
ディスク面を表側にし、タイヤがホイルにはまり込んでいるかを確認します。もし、スキマや段差が出来ている
場合にはイラストのように小さめの「-」ドライバー等で
ホイルにキズを付けないよう、タイヤを回転させながら
タイヤのリブを引っぱり出し、ホイルのリムにかぶるよ
うに合わせます。

最後に全体をよくもみほぐし、リングとタイヤ、
タイヤとホイルをなじませて下さい。

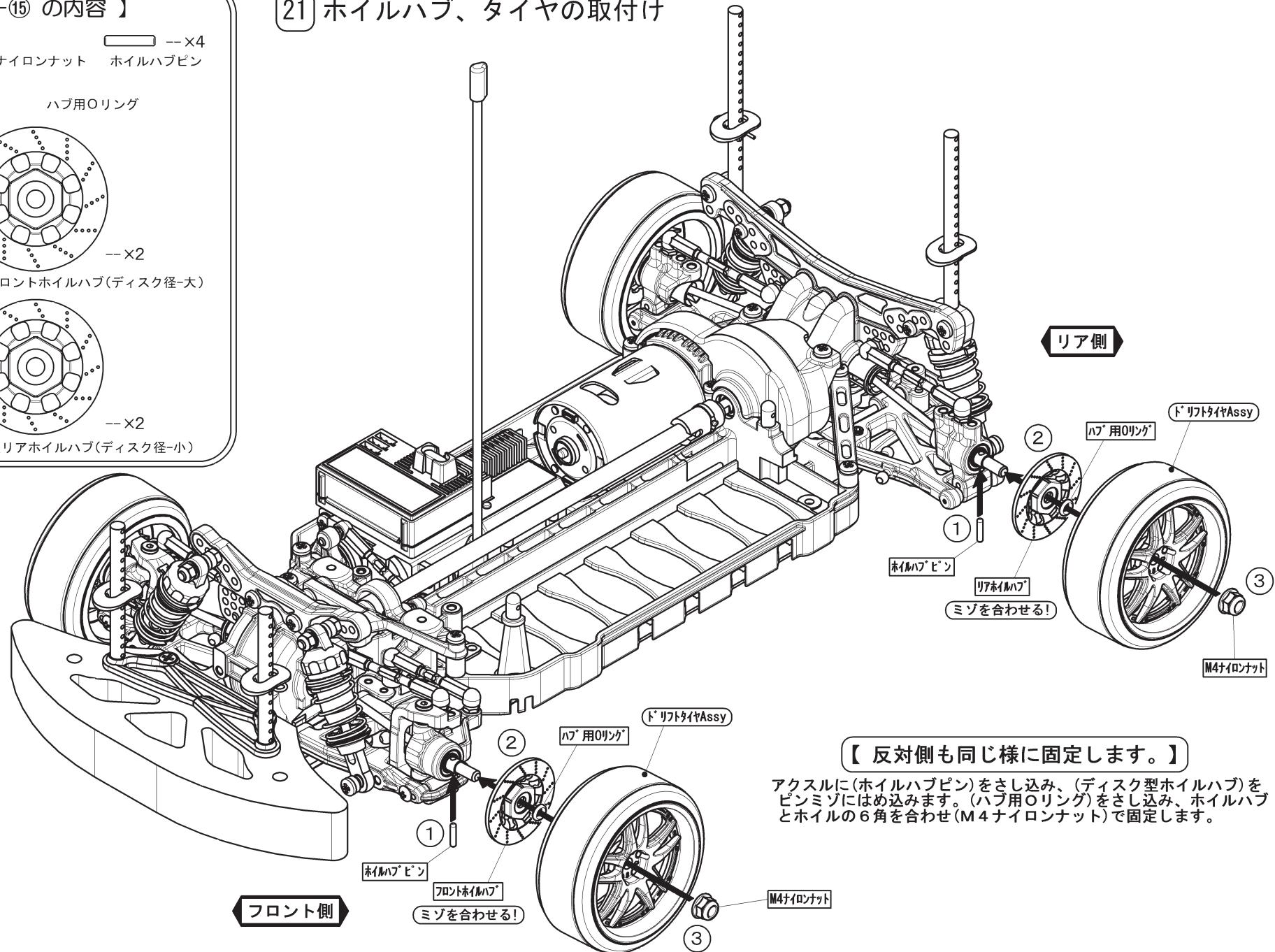
【袋-⑯ の内容】



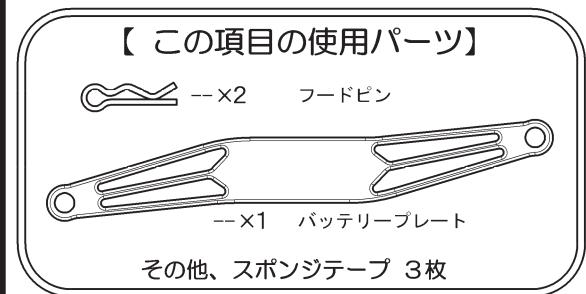
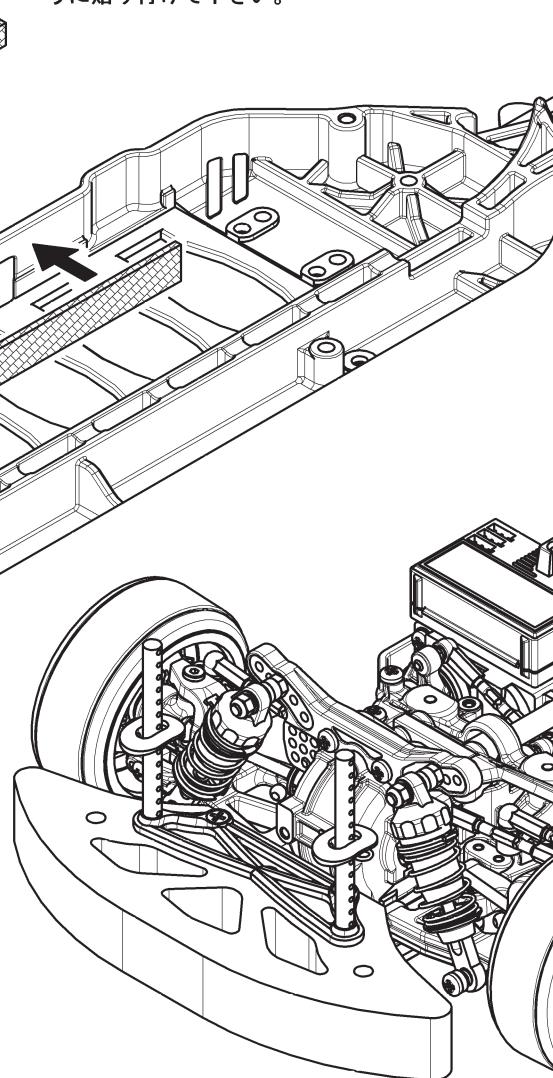
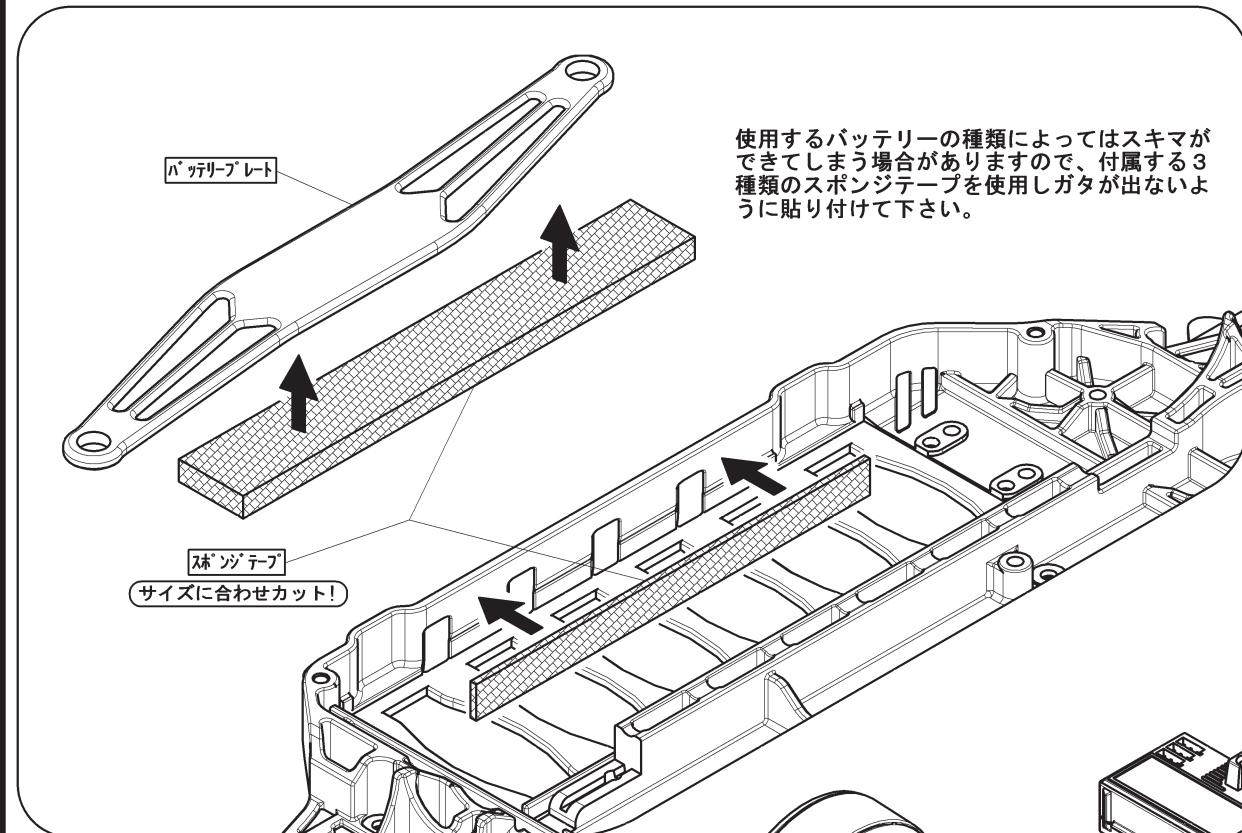
--×4
ハブ用Oリング



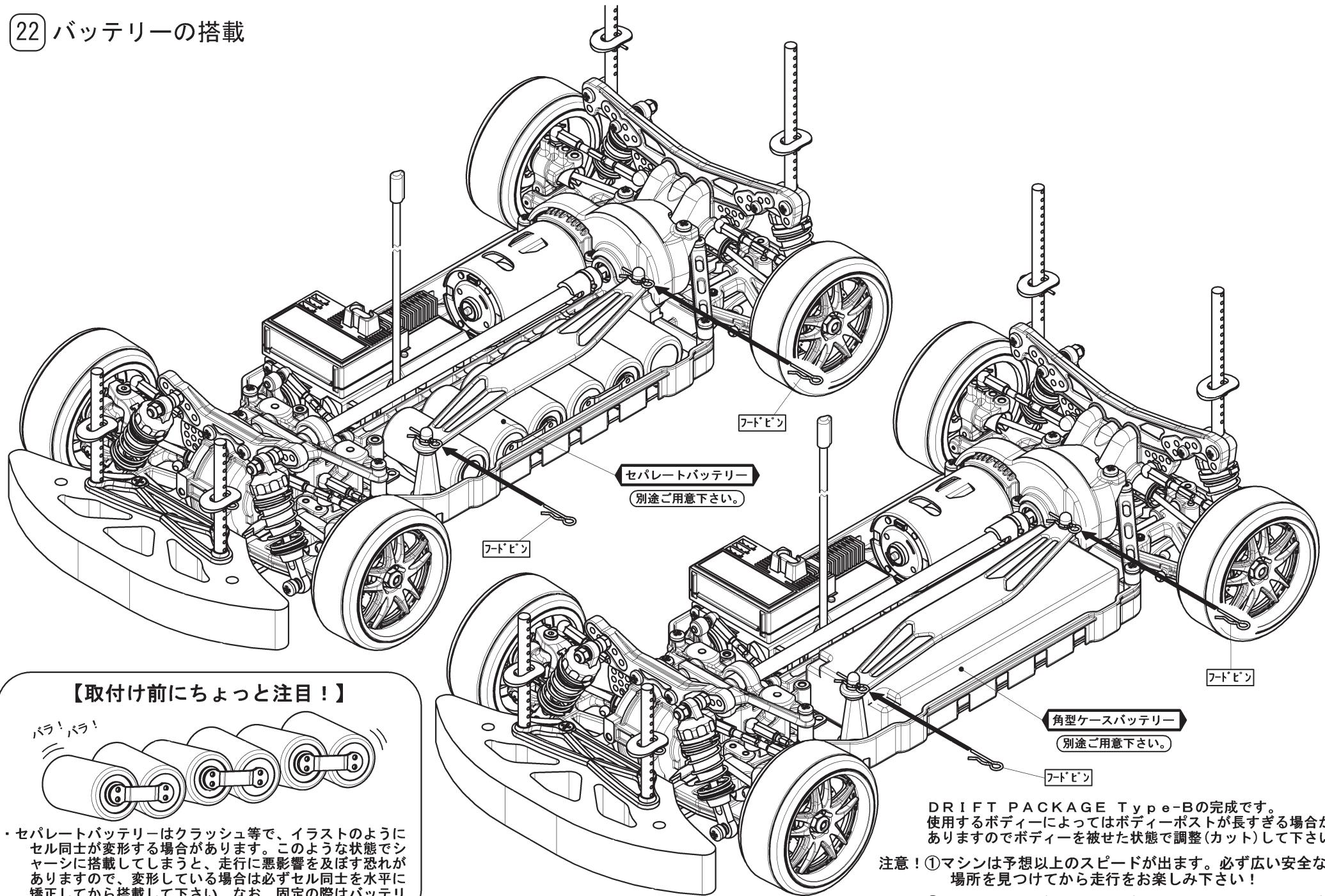
21 ホイルハブ、タイヤの取付け



22 バッテリーの搭載



22 バッテリーの搭載



【取付け前にちょっと注目！】

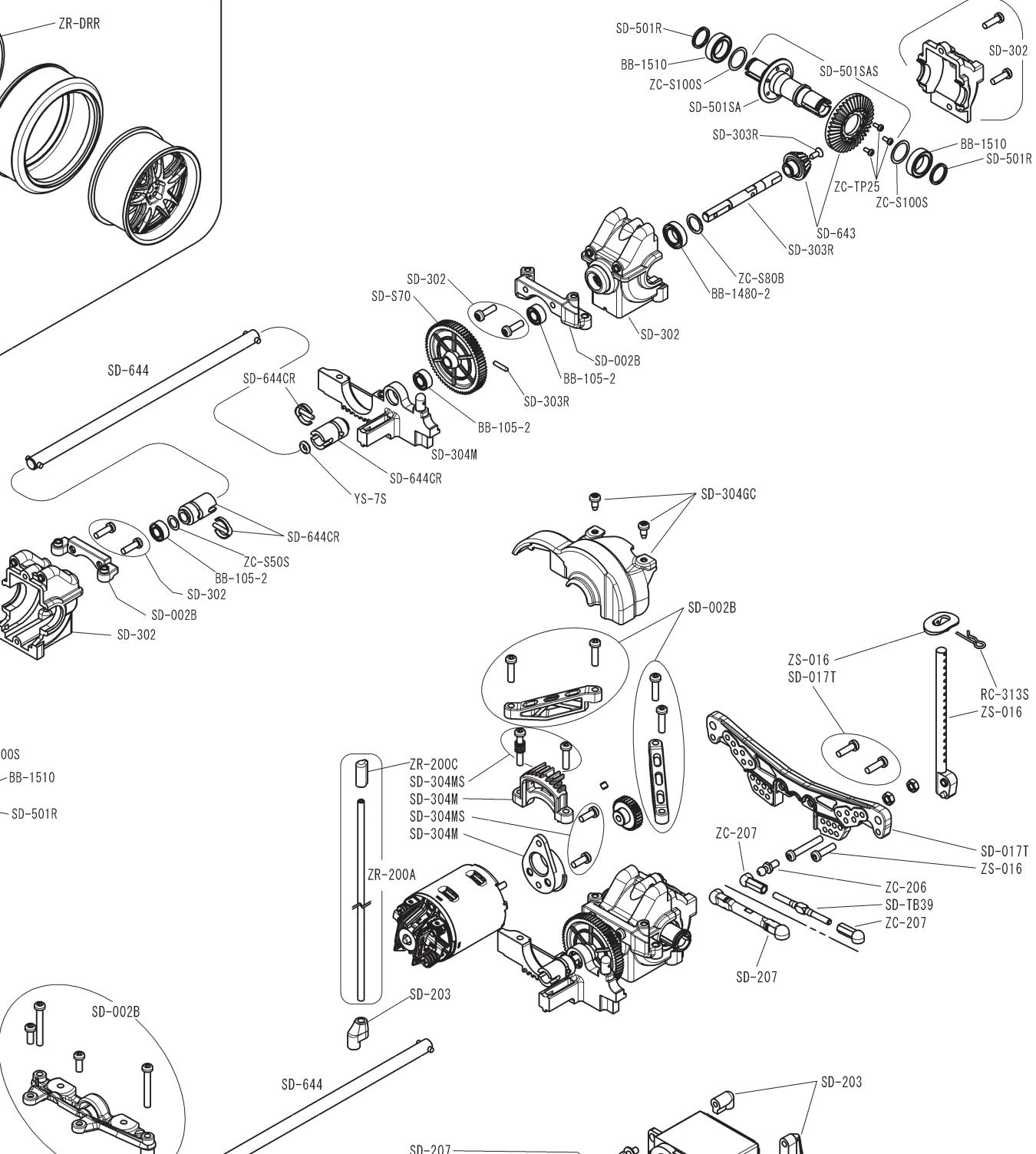
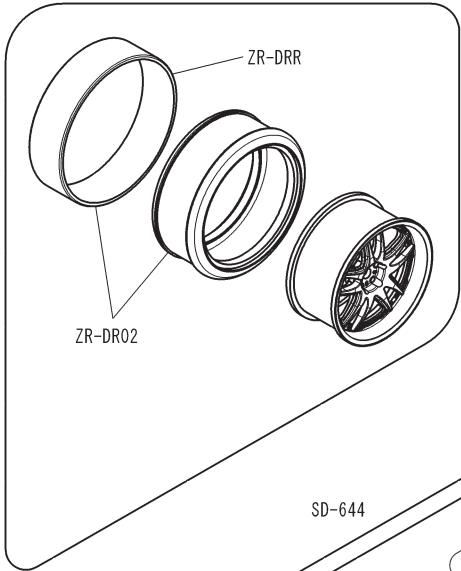
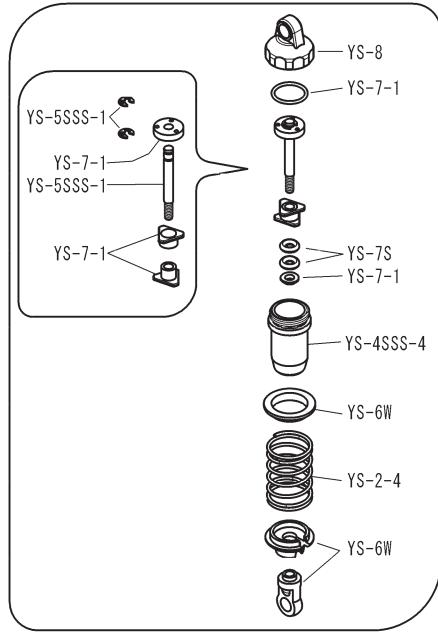
バラ、バラ！

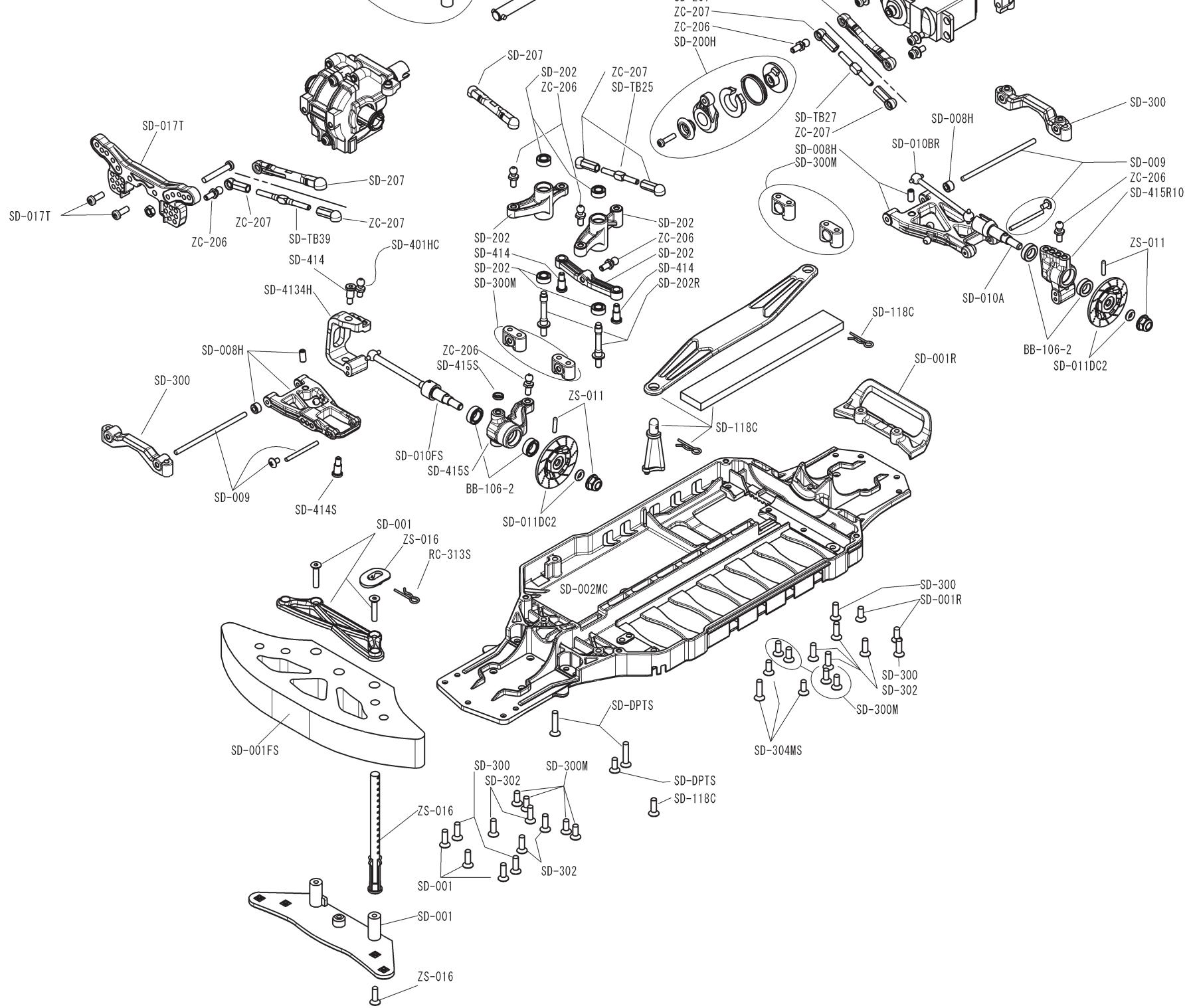
セパレートバッテリーはクラッシュ等で、イラストのようにセル同士が変形する場合があります。このような状態でシャーシに搭載してしまうと、走行に悪影響を及ぼす恐れがありますので、変形している場合は必ずセル同士を水平に矯正してから搭載して下さい。なお、固定の際はバッテリープレートを押さえつけず多少のガタを持たせて下さい。

DRIFT PACKAGE Type-Bの完成です。
使用するボディーによってはボディーポストが長すぎる場合がありますのでボディーを被せた状態で調整(カット)して下さい。

注意！①マシンは予想以上のスピードが出ます。必ず広い安全な場所を見つけてから走行をお楽しみ下さい！

②キットには、バッテリーは含まれておりませんので別途ご用意下さい。





DRIFT PACKAGEM SETTING SHEET

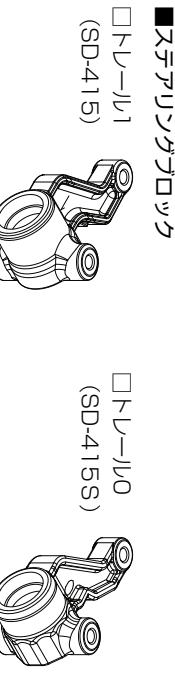
DATE / /

ドライバー

サーキット	<input type="checkbox"/>	環境	<input type="checkbox"/> インド <input type="checkbox"/> アウトドア
路面	<input type="checkbox"/> アスファルト <input type="checkbox"/> コンクリート <input type="checkbox"/> カーペット	グリップ	<input type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> 普通
路面状況	<input type="checkbox"/> フラット <input type="checkbox"/> ノンピー		

■フロントサスアーム位置

mm × 枚



■ステアリングブロック

トレーリー (SD-415)

ワンウェイ (SD-640T)

樹脂製 (SD-501DS) アルミ製 (SD-500A)

ボールレフ (SD-501SAS) アルミ製 (SD-501SAA)

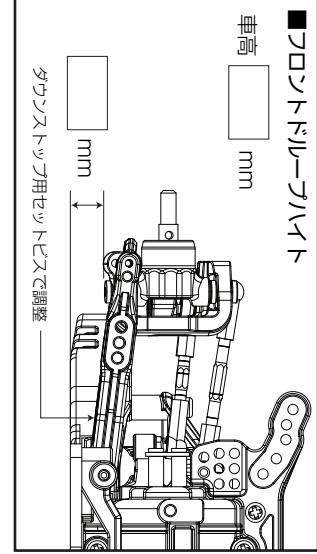
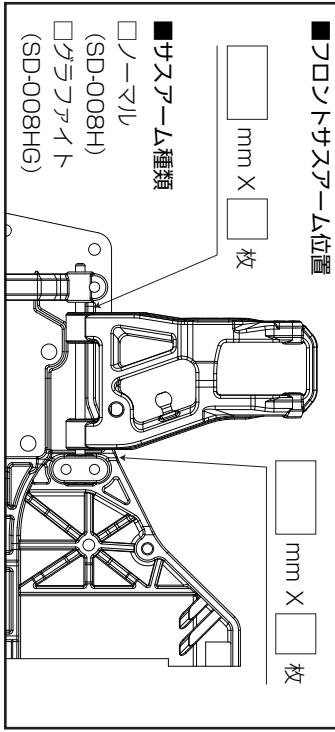
ソリッドアクスル (SD-008H) グラファイト (SD-008HG)

TeamSUZUKIステアリングブロック (TS-2100)

◀FRONT

■アイアーム、ショック位置

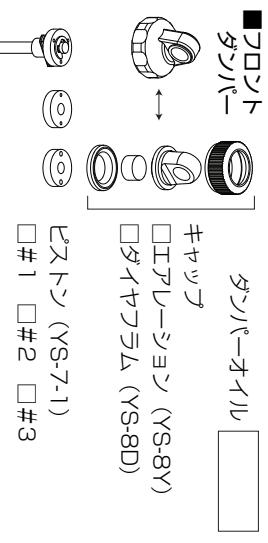
ギヤ比 スパー () ピッチ () 枚
 ピニオン () ピッチ () 枚



■フロントドゥーブハイタ

車高 mm

ダウンストップ用セットビスで調整



■フロントダンパー

ダンパー油 キャップ

エアレーショーン (YS-8V)

ダイヤフラム (YS-8D)

ビストン (YS-7-1)

#1 #2 #3

シリンダー

プラスチック (YS-4SSS-4)

アルミ (YS-4SSS-6)

スプリング

()

バンブストップリング

板

スプリングカップ

プラスチック (YS-6W)

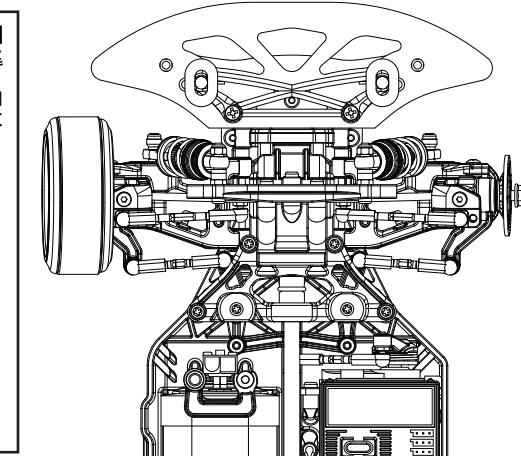
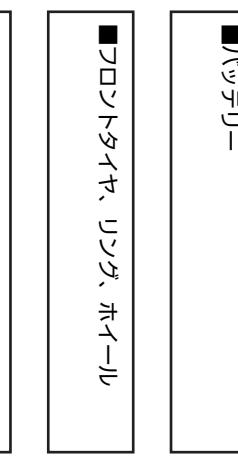
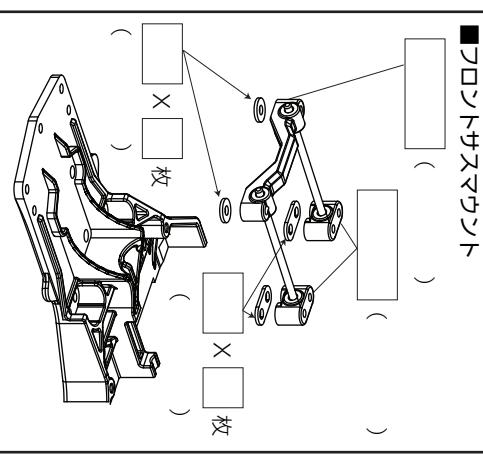
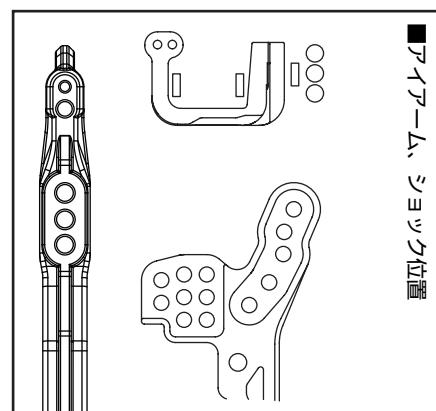
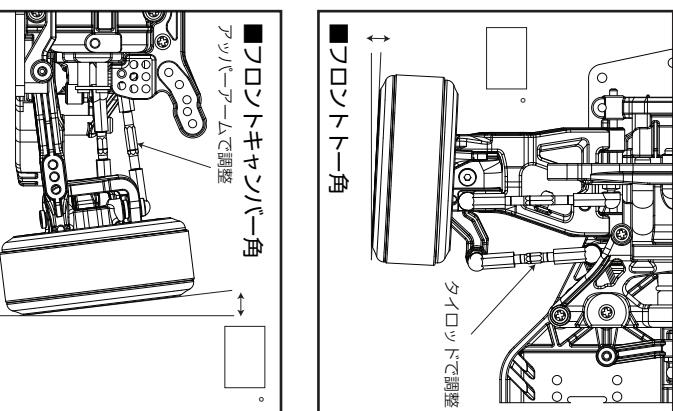
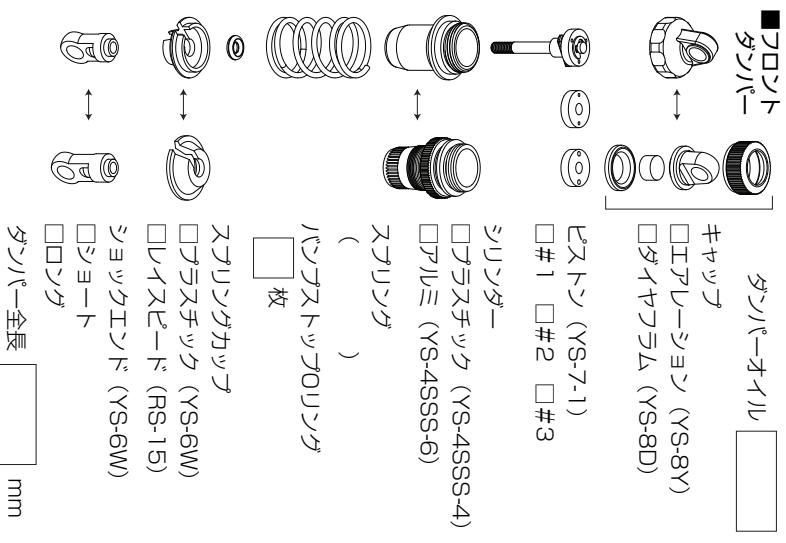
レイスピード (RS-15)

ショックエンド (YS-6W)

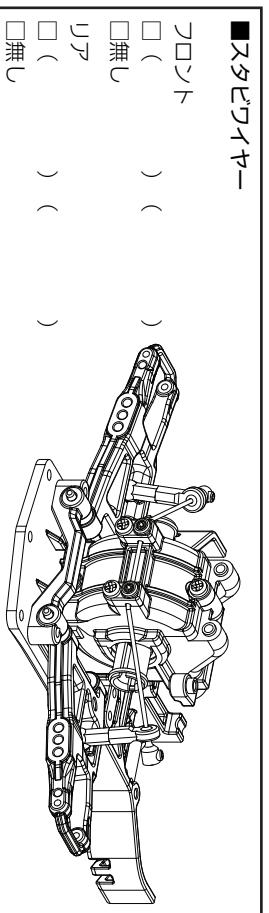
ショート

ロング

ダンパー全長 mm



ボディ ()
ウイング ()
コメント ()

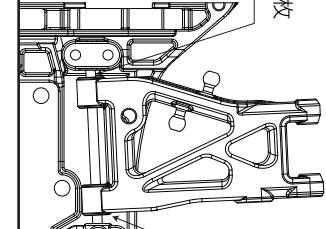


■リアサスアーム位置

□ mm × □ 枚

- サスアーム種類
- ノーマル (SD-008H)
- グラファイト (SD-008HG)

$$\times 2.35 = \text{ギヤ比} (: 1)$$



REAR

■アイアーム、ショック位置



■リアドリーブハイト

車高 □ mm



- トーン0° (SD-415) TeamSUZUKI リアハブキャリア
トーン0° (TS-2101)
- トーン0.5° (SD-415R05) TeamSUZUKI リアハブキャリア
トーン0.5° (TS-2106)



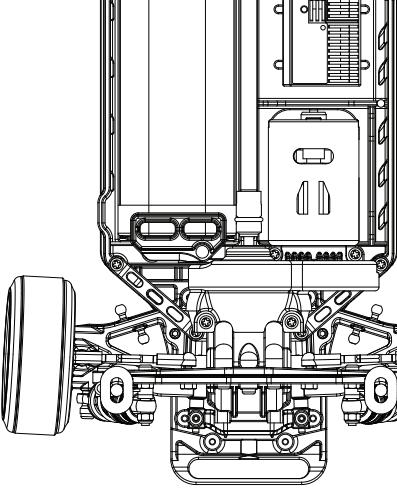
- リアハブキャリア
- トーン0° (SD-415R10)
- トーン0.5° (SD-415R05)
- トーン1° (SD-415R10)
- TeamSUZUKI リアハブキャリア
トーン0° (TS-2101)
- TeamSUZUKI リアハブキャリア
トーン0.5° (TS-2106)

■リア駆動

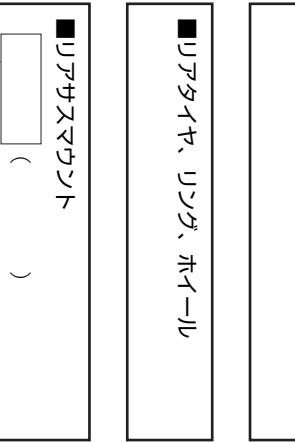


- リア駆動
- オイルドレフ (SD-501DS)
- オイルドレフ (SD-501SAS)
- アルミニ製 (BD-500A)
- アルミニ製 (SD-501SAA)

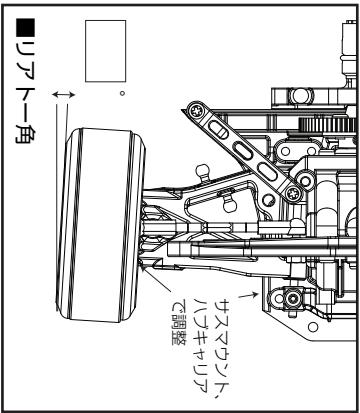
- ボディ
- フロント ()
- ノーマル ()
- 無し ()
- リア ()
- 無し ()



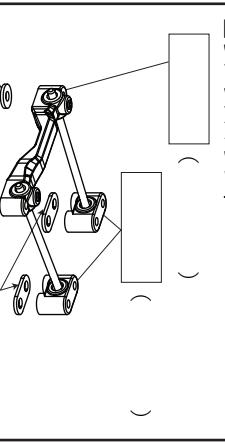
■モーター、ESC



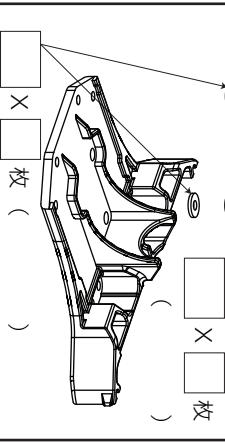
■リアタイヤ、リング、ホイール



■リアサスマウント



■リアキャンバー角 アップアームで調整



× □ 枚 ()

× □ 枚 ()

× □ 枚 ()

■リアダンパー

ダンパー油圧 □

キャップ

エアレーション (YS-8Y)

ダイヤフラム (YS-8D)

ピストン (YS-7-1)

#1

#2

#3

シリンダー

プラスチック (YS-48SS-4)

アルミニ (YS-48SS-6)

スプリング

()

パンツストップリング

□ 枚

スプリングカップ

プラスチック (YS-6W)

レイスピード (RS-15)

ショックエンド (YS-6W)

ショート

ロング

ダンパー全長 □ mm

AS A MANUFACTURER OF WORLD CHAMPIONSHIP WINNING CARS,

YOKOMO WILL CONTINUE TO PROVIDE THE BEST AVAILABLE TECHNOLOGY TO R/C ENTHUSIASTS ALL OVER THE WORLD.
ENJOY THIS PRODUCT KNOWING THAT YOU ARE DRIVING ONE OF THE BEST HANDLING R/C CARS EVER DESIGNED.



世界のブランド YOKOMO

ヨコモは競技用 R/C カー（ラジオコントロールカー）の専門メーカーです。その製品は、全日本選手権、全米選手権、ヨーロッパ選手権、そして R/C カーレースの最高峰である世界選手権レースでも優勝。世界の R/C カーマニアに愛用されています。